

令和5年第15回教育委員会定例会

開会年月日 令和5年8月4日(金)  
場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 教育長 堀 和 夫  
同 委員 仲 山 英 之  
同 委員 坂 口 節 子  
同 委員 中 田 尚 代  
同 委員 岡 田 行 雄

議 題

1 議案

(1) 議案第37号 練馬区立小学校教科用図書の採択について

2 陳情

- (1) 令和4年陳情第1号 ゲノム編集食品・植物を学校で使用しないことなどを求める陳情書  
〔継続審議〕
- (2) 令和5年陳情第1号 教科書採択にあたって教職員の意見を尊重し、採択に反映させることを求める陳情書
- (3) 令和5年陳情第2号 小学校教科書採択に関する陳情書

3 協議

(1) 旭丘・小竹地区における新たな小中一貫教育校の設置について〔継続審議〕

4 報告

(1) 教育長報告  
その他

開 会 午前 10時00分  
閉 会 午前 12時43分

会議に出席した者の職・氏名

教育振興部長	三 浦 康 彰
教育振興部教育総務課長	櫻 井 和 之
同 教育施策課長	枝 村 聡
同 学務課長	杉 山 賢 司

同	学校施設課長	柴 宮 深
同	保健給食課長	唐 澤 貞 信
同	教育指導課長	山 本 浩 司
同	副参事	風 間 浩 也
同	学校教育支援センター所長	村 瀬 美 紀
同	光が丘図書館長	山 崎 直 子
こども家庭部長		関 口 和 幸
こども家庭部子育て支援課長		山 根 由美子
同	こども施策企画課長	佐 藤 重 康
同	保育課長	清 水 輝 一
同	保育計画調整課長	山 口 裕 介
同	青少年課長	小 島 芳 一
同	子ども家庭支援センター所長	橋 本 健 太

教育長

ただいまから、令和5年第15回教育委員会定例会を開催する。

案件に入る前に、本日の審議環境について、ご説明をさせていただく。

本日の会議については、傍聴を希望される方が多数いらっしゃったため、抽選を行った。抽選の結果、本日は、18名の方が、この教育委員会室において傍聴されておられる。

また、抽選に当たらなかった方については、19階に控室を設け、審議の様子を音声にて放送させていただいている。

適切な審議環境を守るために、会場を広くすることはできないが、より多くの方に教科書採択の様子をお伝えするため、控室での音声放送という形を設定させていただいた。

各委員におかれては、ご異存がなければ、この形で進めさせていただきたいと思うが、よいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、いつものマイクとはちょっと違うことや、傍聴者も多いから、いつもより大きめの声でよろしくお願ひしたいと思う。

それでは、審議を進めさせていただきたいと思う。

本日は、議案1件、陳情3件、協議1件である。

まず、本日の会議の進め方についてお諮りする。

議案第37号 練馬区立小学校教科用図書採択については、陳情のあとに審議をいたしたいと思うが、よいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

初めに、陳情である。

継続中の陳情(1)については、事務局より新たに報告される事項や大きな状況の変化はないと聞いている。したがって、(1)については、本日のところ、継続としたいと思う。よいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

(3) 令和5年陳情第2号 小学校教科書採択に関する陳情書

教育長

次に、陳情案件である。

陳情(3)令和5年陳情第2号 小学校教科書採択に関する陳情書、この陳情については、本日新たに提出されたものである。事務局より読み上げをお願いする。

事務局

それでは、新たに提出された陳情の要旨について、読み上げをさせていただく。お手元の陳情書をご覧ください。

令和5年陳情第2号 小学校教科書採択に関する陳情書。

陳情代表者等は記載のとおりである。

要旨。

1、教科書の採択にあたっては、学校現場の教員の意見を十分尊重して採択すると共に、採択の過程と規準を区民に説明し、公開すること。加えて、採択した教科書についてその理由を説明すること。

2、教育出版の社会の教科書には、核兵器廃絶に対する国の姿勢について事実と異なる記述があること、また自衛隊の災害救援活動について誤解が生ずる恐れがあることから、これを教科書として採択しないこと。

3、道徳の教科書については、別冊が附いたり、児童の学びについて単元毎に自己評価を求めたりする教科書は、採択しないこと。

4、今回の教科書には、複数の教科でSDGs(持続可能な開発目標)に関する記述が見られるが、目標の確認だけでなく、単元の指導内容と関連づけ、科学的知見に基づいた現状の理解が可能となる教科書を採択すること。

以上である。

教育長

それでは、本日は、教科書採択に関する陳情である令和5年陳情第1号と、ただいま読み上げをした第2号の2件について審査を行い、結論を出したいと考えている。

(2)令和5年陳情第1号 教科書採択にあたって教職員の意見を尊重し、採択に反映させることを求める陳情書。

(3)令和5年陳情第2号 小学校教科書採択に関する陳情書、各陳情はおのおの複数の項目があるが、全て教科書採択に関するものであるもので、項目ごとだけではなく、一体的にご意見を伺い、採択または不採択の判断についても総合的に判断する一括した審査としたいと思うが、よいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

- (2) 令和5年陳情第1号 教科書採択にあたって教職員の意見を尊重し、採択に反映させることを求める陳情書
- (3) 令和5年陳情第2号 小学校教科書採択に関する陳情書

教育長

では、陳情の審査に入る。

(2) 令和5年陳情第1号 教科書採択にあたって教職員の意見を尊重し、採択に反映させることを求める陳情書。

まず、この陳情第1号について、各委員からのご意見をいただきたいと思う。

岡田委員。

岡田委員

私は、ここに示された陳情書を読ませていただいた。教職員の意見を採択に反映することというふうにあるわけだが、各調査委員会や教科書の展示会などで、先生方からいろいろなお意見をいただいている。それらについて、私たちの手元に資料として届けられ、それを読ませていただいている。先生方のご意見も十分に尊重し、参考にさせていただいているので、この陳情については採択しなくても十分反映されていると考えている。

以上である。

教育長

ほかにないか。

坂口委員。

坂口委員

私たちは、教育委員として、全国都道府県自治体、全部の教育委員会が、教育委員会において採択を決めるというシステムになっている。私はそのために忠実にこれらの仕事をした。全部で教科書会社から259冊あまりの教科書が届けられた。それも本当に大変な関係者の皆さんの努力の結果だと思う。

私は、この中に練馬区に届けられたセット、12セットだと聞いてびっくりしたが、これをできるだけ区民の皆さん、教職員の方々にきちんと見てほしいということで、様々な方法で、図書館であったり、教科書センターに置いたり、いろいろしたということも知っている。だから、教育委員会が住民の意見を汲み取っていないとか、そういうことには当たらないと思う。教職員の方からは、13通だったか、それから区民の方からもっとたくさんの意見、44人分、55通のものが届けられた。全てに目を通した。私たちは、この約3か月間、実に様々な時間を工夫してそれぞれの教科書を読んだ。その中で出た結論で、それぞれが教育委員会の委員の中の資質のようなこと

まで求められているが、私たちは、それを受け止めて、自分たちの仕事として一生懸命に当たったという気持ちがあるので、これをそのまま採択するというについては賛成しかねる。

以上である。

教育長

ただいま12セットということがあったが、14セットか。

教育指導課長

教育指導課のほうに届けられるものが12セット、それから学校教育支援センターのほうに、今、展示会用で届けられるものが2セットということで、合わせて14セットということになる。

以上である。

教育長

ということで、14セットということで発言を修正させていただきたいと思う。ほかにないか。

中田委員。

中田委員

教科書協議会のメンバーというのは、校長先生、教員、保護者で構成されているものとなっている。教科書協議会の答申に、現場で教える教員にとって使いやすいかの観点では書かれておらずということであるのだが、どの出版社が使いやすいかというのは主観になると思う。私たち教育委員がその記録を見ると、それを惑わされることになる。検定本の内容や構成、表記の事実が客観的に記録されたものを参考とした。

また、教科書展示会の期間は、限られた数の見本本を練馬区内の一定の地域に偏らないように、4か所の場所を順に変更して展示を行っている。小学校を借りての見本本閲覧が3週間、学校教育支援センター、図書館の教科書展示会、合わせると約6週間設けていることになる。公共の施設を区民のために平等に使用することを考えると、妥当な期間だと私は思う。

なので、私もこの陳情に関しては不採択としたいと思う。

以上である。

教育長

仲山委員。

仲山委員

私は既にお三方がお話しされた意見と同感であるので、不採択としてよいかと思う。

教育長

それでは、まとめたいと思う。

この陳情については、教育委員会として、各委員からお話があったが、既に取り組んでいる内容もあるが、受け入れることはできない内容も含まれていると考える。したがって、陳情第1号については、不採択といたしたいと思うが、よいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、陳情第1号は不採択とする。

次に、陳情第2号について、各委員のご意見を伺う。

仲山委員。

仲山委員

四つのことが陳情の中に要旨として書かれている。このいただいた意見は十分参考にさせていただくが、この陳情の中には特定の教科書の採択に関する意見がある。もしこの陳情を受け入れてしまうと、区民の皆さんが展示会などで寄せられたたくさんの意見、今回の陳情とは反対の意見もある。そういった意見を完全に無視してしまうことになるので、この陳情は参考にはするが、不採択が適切かと思う。

教育長

ほかにないか。よろしいか。

それでは、まとめたいと思う。

この陳情については、教育委員会として既に取り組んでいる内容もあるが、ただいま仲山委員からもあった文部科学省の検定を経て決定された教科書について、特定の教科書を採択しないようにという受け入れることのできない内容等も含まれている。したがって、この陳情第2号については、不採択といたしたいと思うが、よいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、陳情第2号は不採択とする。

以上をもって、陳情の審査を終了する。

(1) 議案第37号 練馬区立小学校教科用図書の採択について

教育長

次に、議案第37号の審議を行う。

議案第37号 練馬区立小学校教科用図書の採択についてである。

初めに申し上げる。教科用図書の採択は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条第6号の規定により、教育委員会の職務権限となっている。

採択に当たって、教育委員会では、4月に小学校教科書協議会に諮問を行い、先月7月21日開催の第14回定例会において、同協議会から答申を受けた。

また、教育委員会では、先ほどからもお話が各委員からもあったが、委員がそれぞれこの期間、教科用図書の調査研究を行ってきたところである。

本日は、各委員から、種目ごとに推薦する教科用図書の発行者名を発言していただき、審議をしていきたいと思う。

本日は、全部で13種目の教科用図書の採択をする。

順番は、国語、書写、社会、地図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、保健、英語、道徳の順とする。

本日の採択でのご意見については、各委員から、第1候補及び第2候補として推薦する発行者名及びそれを選んだ理由についてご発言をいただく。推薦する発行者名は、第1候補のみでもかまわないし、第3候補以上の推薦があっても、それは構わない。順番はつけていただくことになる。

基本的な決定については、第1候補として推薦する委員が多い発行者1社を採択することとしたいと思う。

ただし、第1候補者が同数となった場合については、第2候補にその会社を推した委員が多い発行者を採択することとする。

種目ごとの各委員の発言の順序についてお諮りする。

最初の科目である国語については、仲山委員、坂口委員、中田委員、岡田委員の順に推薦する発行者名について発言をいただき、委員全員のご意見を確認したいと思う。その後は、発言者を種目ごとに、坂口委員、中田委員、岡田委員、そして再び仲山委員といった順で、バレーボールのサーブ権のような、ローテーションで進行していきたいと思うが、よいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

初めに、国語になる。

なお、この教科書採択全般に関わる委員のご意見については、この国語の冒頭でご意見を言っていただきたいと思います。その後に、候補となる国語の教科書のご推薦をお願いします。

それでは、仲山委員からお願いします。

仲山委員

それでは、全体のことに私のお話したい。



不登校に関する国及び練馬区の調査において、不登校の原因の一つとして、勉強が分からない、勉強がつまらないということが挙げられている。そのことを踏まえて、私が教科書を選ぶ際に重要視した点であるが、まずは練馬区の評価規準を満たしているという、それが大前提であるが、その中で児童が理解しやすいか、学ぶ楽しさを味わえるか、また、教員が教えやすいかという点に注目した。その観点から評価したわけであるが、評価する際に参考したものは、小学校教科書協議会の答申、また、それとは別に得た教員からの意見、それから、教科書展示会や陳情で寄せられた意見、そういったものを参考にした。

それからもう一つ重視したことがある。それは、私が仕事柄、多くの大学生と接することによって得た知見であるが、小学校以降の学習でつまづかないために、小学校教育の段階において最低限理解しておいたほうがよいこと、それから、身につけておいたほうがよいこと、それらがしっかり学べるようになっているかという点である。こういったことを考慮して選んだ。これが全体の私の選ぶときの方針である。

国語であるが、光村図書を第1位に、東京書籍を第2位に推薦する。

先に申し上げた観点を踏まえた上だが、特に現代の社会生活に必要な、それから、これから生成AIが発達してもやはり必要な読解力、特に論理的な文章を読み解く力、その力をつけるのに適した教科書を選んだ。

東京書籍のほうであるが、文学的な文章に比べて、説明的な文章が多く取り上げられていて、そこはいいと思ったのだが、全体的に難易度が高いという感じを受けた。

一方、光村図書は、文学的な文章と説明的な文章の割合が適切で、しかも長い説明的な文章の読解に取り組む前に、練習用の短い文章が用意されている。したがって、段階的に勉強できるような工夫がされている。この点を重視して光村図書を選んだ。以上である。

教育長

次、坂口委員、願います。

坂口委員

少し長くなるが、私がこの教科書選定の仕事をするに当たって思ったことを発言させていただく。

令和6年度の練馬区内の小学生の教科書選定をさせていただいた。全教科、各出版社が全力で内容を精査されて仕上がった教科書である。子供たちの目線で、学力、理解力、そして進路への配慮、次を目指していこうとする意欲、探求しようとする動機づけ、主体的・対話的な深い学びにつながる学習がなされ、公教育の中で成長していく基本の教科書である。編集に当たり、専門的な課題を小学生のために多くの方々の知恵が結集された結果であると受け止めた。

学校という初めての体験が待つ新1年生のための教科書は、生活、国語、道徳など、どの会社の教科書も教育の中に入っていく子供たちのための温かい気遣いや安心、優しさにあふれていて、「学校を好きになってね、楽しいところだよ」というメッセージを発信している。教育の入り口に立つ子供たちへ向けて、これからこの本を開い

でたくさん学んで吸収し、成長してほしいという願いを強く感じる。

教科書は、文科省が提示する指導要領に基づいた学年ごとに到達していくべき課題、テーマ、指標に沿って、全てを網羅して漏らさず完璧に編集し、厳重な検定を経ている。それでも改訂年度ごとに新しい課題が必ず加わっている。社会の仕組み、人々の暮らしの変化、技術の進歩、4年間の間により新しい学びが加わり、特にICT導入後の目覚ましい変化に伴って、小学生であっても学ぶべきことがマイナスにされないまま、さらに増やされている。地球環境、大災害体験後は身の安全を守るための知恵、技術も大切な心掛けであるし、SDGsに伴う17のゴールの中でも、ジェンダーフリーの生き方、多様性、また地球温暖化の将来を生き抜くために子供たちに求められる様々な課題は尽きることを知らない。

さらに、今回は、どの会社もQRコードの充実でコンテンツが増大し、教科書のほかにさらに詳細な情報はよいよ内容も濃く、動画、音声も伴って大量な情報となって届けられている。タブレットの個人配置は、ランドセルの重さを気にとめて、教科によっては分冊教科書を採用した配慮を覆しかねないほどの重さに迫ってきている。

6年生の算数には、「最頻数」という言葉が用いられて注目した。各社がこの意味について説明している。平均値ではなく、最もまとまっている数値を見つける考え方で、これからプログラミング、計画立案に必要な考え方である。いかに分かりやすく説明するか、全ての会社の取組の違いに注目した。

また、国語、道徳については、複数の社で同じストーリーを扱っていたので、その比較検討もした。

教育の未来思考は、生成AIで文章もグローバルの練成がさらに期待されると同時に、STEAM教育が目指すあらゆる能力に優れた個人の育成よりも、様々な知恵や力を集める協働の考え方こそ次世代の開拓者となるのであろうと言われている。ICT教育に幼児のときから慣れ親しんでいる子供たちには、学校教育で集団形成を体験し、これらの教育を基本として学び、お互いの力、人間性を認め合って、コミュニケーション力を高め、豊かな生活を築いてほしいと願う。

長くなったが、私の前文である。

国語を選ぶ。

国語は、第1位に光村図書、第2位に教育出版を選んだ。

光村図書は、タブレットやスマホを通しての短文、SNSのやり取りで会話していることが多い日常の中で、子供たちに欠かせない国語学習で一番学んでほしいテーマに、読解力、特に文章を書く力を養うことだと思っている。AIではなく、オリジナルな自分の意見を出す力、そして声に出して語りかける力を学んでほしい。この光村図書の本は、なりきり作文、例えば、飼い犬の側になって表現するなどに取り組んでいて、あるいは、未来の自分について想像して文章化するなど、力になることが期待できる。長文を読み取り、発問を工夫して子供自身に考えさせる、発表する、教師と対話して自分の思いを表現する学びの発展が期待できるからである。

教育出版も次に挙げたいと思う。話すこと、聞くことについて、イラストや図が大変分かりやすく表示してあったと思う。

以上である。

教育長

それでは、中田委員、お願いします。

中田委員

私は、学習指導要領の目標である主体的・対話的で深い学びの視点から、自ら進んで友達や先生と考えを伝え合いながら、さらに新しいことに興味を持つことができるようにと、どの出版社もそれぞれの工夫があり、楽しく拝見することができた。

私は、保護者目線で選ばせていただいたが、1年生になるとき、初めてランドセルに教科書を持って学校へ行くという、その楽しみがずっと続いてほしいと思った。家庭学習をするときに、寝転がって教科書の絵や写真だけを見るのもいいと思う。字を読むことは習慣で培われると考えているので、今の子供は、テレビやゲームの影響もあって、受け身でいろいろな情報が入ってくる世代である。そういう子供たちがいかにして自分から読むということをしてくれるか。読む習慣をつくる第一歩が学校の教科書だと思う。まず開いたときに読んでみようという気持ちにさせるための興味を持つようなイラストや写真、文字を邪魔することがないような視覚的配慮も考慮した。

また、学校は社会勉強をする場だと思う。家庭とは違い、先生や友達と関わりを持って学ぶ場である。他者との場面設定がされているかも視野に入れて採択した。

私は、国語は、1番に光村図書、2番に東京書籍を選んだ。

光村図書は、文字とイラストのバランスがよいため、全体的にすっきりしていて見やすい印象を受けた。「本はともだち」の「この本、読もう」は、読みたくなるように、テーマ別、簡単な内容紹介文があり、読書を勧めている。

巻末の「言葉の宝箱」は、文を作るときに語彙力を豊かにするためには有効だと思われる。

個人的には、「季節の言葉」というのが気に入っていた。低学年では歌、中学年になると行事や俳句、5年生は「枕草子」の「春はあけぼの」の引用、6年生では季語を提示している。美しい日本語が廃れていかないように願っている。

また、6年生では、最後に、「卒業する皆さんへ」として、谷川俊太郎さんの「生きる」で命の大切さ、福岡伸一さんの「人間は他の生物と何がちがうのか」では、人間が言葉を発明したことだと伝えている。6年生の国語の締めくくりとして、いい題材だと思った。

次に、東京書籍は、「言葉の力」で、まず単元で学ぶことを提示している。これから学ぶことの見通しを持って読み進めていくことができると思った。

「コトハ」「ハテナ」というキャラクターの設問が枠に囲んでいるため、一目見て分かりやすく配慮されていた。

また、二葉や葉っぱなど緑を貴重としたイラストを使用しているため、優しい色合いで見やすいと感じた。

こちらも6年生の最後に、日野原重明さんの「君たちに伝えたいこと」では、寿命という時間の使い方から生きていることの大切さを、谷川俊太郎さんの「春に」では、中学校を目前にして成長していく中での不安や悩みにぴったりの題材だと思った。

学習の基本である国語で、正しい日本語、豊かな表現を学んでほしいと思い、この二つの出版社を選んだ。

以上である。

教育長

それでは、岡田委員、お願いします。

岡田委員

小学校の教科書採択に当たり、私の教科書に対する考え方を少し述べさせていた  
だく。その次に、国語の採択について意見を述べる。

教科書は、主たる教材として授業で使われている。先生方は、教科書を用いて授業  
を組み立てたり、児童生徒は学習を進めるツールとして教科書を用いたりしている。  
教科書の先生方へ及ぼす影響を考えたとき、教材として授業で用いるだけにとどま  
らず、授業の質に大きな影響を及ぼすものと私は捉えている。知識を羅列した参考書  
的な教科書では、どうしても教え込みになりがちな授業展開、児童に疑問を持たせ、  
自分で考えさせる内容が多い教科書では、探求的な授業展開が多くなっていくと思  
う。

また、児童への影響については、今の社会状況を考えると、家庭学習にも使える教  
科書という側面がとても重要になってきていると思う。新型コロナウイルス感染症  
の拡大による学校閉鎖や、不登校児童生徒の増加などで、子供たちの学習機会の確保  
や充実が重要な課題となった。その中でQRコンテンツの拡充は、これからの教科書  
にとって必要不可欠なものになってきていると思う。

さらには、今日、学校教育に求められている「個別最適な学び」と「協働的な学び」  
の充実は大きな課題となっているが、これを言葉だけではなくて、授業時数の中で子  
供たちに提供することが先生方に求められているし、それを支えることができるの  
が教科書だと思う。それだけに、毎日、毎時間の授業を形づくると言ってもよい教科  
書の役割が大きいと言える。さらには、時代の要請として、学校が対応すべき様々な  
課題がある。例えば、環境問題、SDGs、LGBTQへの教科書の関わり方や、様々  
な障害のある児童への配慮も大切な視点だと思う。私は、このように考えて教科書の  
採択の視点として教科書を検討した。

次に、国語について意見を述べる。

私は、光村図書を第1位、東京書籍を第2位として推薦する。

教材が学年の発達段階に合わせて配置され、児童が興味を持ちやすく配慮してい  
るのは光村図書が一番だと感じた。

SDGsに関する教材の取扱いやQRコンテンツの取扱いなど、各社ともよく工  
夫し、優れた教科書になっていると思う。特にQRコンテンツの充実については、東  
京書籍がとてもよいと感じた。

一方で、話し合い活動などの言語活動では、光村図書が少人数による話し合いや学級で  
の話し合い活動に力を入れて、言語活動に関する単元を多く設定していると感じた。

また、説明文の取扱いでは、先生方の使いやすさを考えると、光村図書のほうが使

いやさを感じる。

甲乙つけ難い状況だと思ったが、全体を見渡して、1位を光村図書、2位を東京書籍とした。

以上である。

教育長

それでは、私から申し上げます。

まず、採択全般に関わってであるが、令和2年度末に、全小中学生にタブレット端末が配備された。配備されて最初の教科書採択となる。各委員からのお話もあったが、それに際してQRコードのコンテンツがどうなのか、それから、教科によっては、特に英語などでデジタル教科書、これは全部ではないが、一部採用されている。そういったタブレットが配備されたことに伴うデジタル系の教材としてどうなのかということが1点。

それから、コロナで休業を余儀なくされた、また、場合によっては不登校のお子さんに対するフォローとして、教科書という紙媒体では限界がある。重さもかかる。そういった意味で、このようなデジタルコンテンツを使うことによって学習活動ができないかということ。それから、個人が発展的に学習しようとしたときに、この教科書の紙面以上のものを調べようとしたときのツールとしても活用できるかと思った次第である。

それから、SDGsについて、これ、全教科にわたって言及しているが、SDGsについての考え方を重視したということが2点目。

3点目だが、各教科にわたって、各分野の有識者や著名人の体験やメッセージが寄せられている。子供たちにとって、単なる勉強や学習だけではなくて、子供の心に残るようなメッセージが随所に各教科について掲載されているものも、ある意味では、教材としていいのかなと思った次第で、それを踏まえて、この三つを視点として採択を検討したところである。

国語に移る。

国語は、私は、光村図書が第1位、教育出版が第2位である。

まず、光村図書については、文字が大きくて目次が見やすいこと。読んだ本に丸をつけるコーナーがあること。それから、巻末に「言葉の宝箱」というものがあって、いずれにしても学習意欲をかきたてるような工夫がされていること。

それから、5年生の、これは他社もそうであるが、「大造じいさんとガン」という、これが載っているわけだが、前文があるのはこの会社だけであった。いきなり「大造じいさんとガン」の話が出てきて、前文の文章がないと、シチュエーションがなかなか想起しにくいところがあったということが特徴だと思う。

それから、点字と手話について言及がされていて、実際、点字が教科書の中に起伏のあるものがあって、手触りすることができる。これもこの会社の特徴だと思う。

それから、古典であるが、「竹取物語」、「平家物語」、「方丈記」、「徒然草」、「枕草子」、近年、学習指導要領からは文学史というコーナーがなくなってしまったが、やはり古典的名著についての冒頭の部分は、やはり修得しておく、または1回でも見た

ことがあるということが必要かと思って、この光村図書を第1順位としたものである。

第2順位の教育出版については、古典について「平家物語」があるが、「平家物語」は結構難解だと思う。小学生にはちょっと難しいかなと思ったが、いずれにしても古典が1個、「平家物語」が載っていた。

さらに、方言と共通語という、これも他社にはなかった取組がされていること。

それから、来年の紙幣で登場する津田梅子さんについての記載があったこと。来年、ちょうど変わるということで、ある意味でタイムリーな偉人だったのかなという観点で第2順位としたものである。

私からは以上である。

それでは、ここで国語についてまとめたいと思う。

全委員、私も含めて、光村図書が第1候補であったが、光村図書とさせていただいてよいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、国語については、光村図書を採択することとする。

次に、書写をお願いする。

それでは、順番が変わって、坂口委員から。

坂口委員

書写について、光村図書を選んだ。

パソコンで簡単に文字を打って印刷ができるという非常に便利になった現在、日本語を手書きで教科として学ぶ学習は大変意味がある。各学年に合わせた資料がそれぞれ充実している。対話を進めながら言語活動が自然に豊かになっていく工夫が見られる。書写の学習は、基本から文字を一文字ずつ手書きするというので、基本的な書くときの姿勢、ペンや筆の運びを姿勢から表現している。左利きの人には、このように道具を並べていいと、子供の関心や興味を分かりやすく引き出している。

1年生、タブレットに初めての頃の自分の文字を保存しておいて、学年の終わりに比較して、自分がどのくらい進歩したかということを見るような体験も大変いいかと思った。

ほかの会社もいろいろな創意工夫があるが、光村図書の一貫性、統一感が特に選んだ理由である。

教育長

1点ということでよいか。

坂口委員

はい。

教育長

それでは、中田委員。

中田委員

私も光村図書を一番として1点だけである。

理由である。巻頭のところがシンプルに書写の約束として始まり、まず、自分の書写スタートブックと、自分の名前を書くところから始まっている。これからの学校生活において一番書くことが多い自分の名前、1年生の最後にもう一度書くページがあり、まだ文字を習い始めたときの自分の字と比べてみて、あとから振り返るときにとてもいいのではないかと思った。「しょしゃ体操」字を書く姿勢、鉛筆の持ち方もかなりシンプルではあるが、それが1年生には一番分かりやすい配慮かと思った。

表紙に出ている猫がときどき出てきては、いろいろな体勢をとって書き方のアドバイスをしてくれているのも、楽しく字を書くことができるだろうと想像される。

3年生からは、毛筆スタートブックとして、初めて始まる習字に向けての説明が丁寧にされていた。お手本となる文字の隅に筆の運びが朱色で示されていた。教科書を半分に折ったときにも見ることができる配慮があった。他社では、教科書を半分に折ってしまうと、その筆の運びが見えなくなってしまうので、光村図書はその配慮があった。

また、動画も分かりやすく参考になった。

小筆で名前を書くというのも、ページが3年の教科書の真ん中にあり、大事だと考える。ほかの2社は巻末に書き初めのときに小筆で名前を書くことを想定して練習するようになっていた。習字を習っていたうちの娘が、先生が同じくらい上手に書かれている作品を最終的にどちらかを選ぶときに、名前が上手なほうを選ぶ、それくらい自分の名前を練習する必要があると聞いたことがある。光村図書は、自分の名前を大事に考えていると思った。

4年生でSDGsブック、6年生で書写ブックが綴じ込みについていて、内容が充実していると思い、私は光村図書を推薦する。

教育長

それでは、岡田委員。

岡田委員

私は、光村図書を1位、東京書籍を2位として推薦したいと思う。

3社とも優れた教科書だと思ったが、その中で違いを見つけると、教科書の大きさの違いだとか、QRコンテンツの違いなど、主な点が異なっており、使いやすさなどから考えると、東京書籍か光村図書のどちらかを選択したいと考えた。

さらに、どちらも硬筆能力の育成に力を注いでいて、また、東京書籍は特にQRコンテンツで筆遣いを詳しく解説していたし、光村図書は「振り返ろう」という学習で、

自分が気をつけたところを振り返らせるなど、とてもよい配慮があったと思う。

また、SDGsの扱い方で、東京書籍よりも光村図書のほうが全学年で取り上げているなど、そこら辺の違いがあったので、光村図書を1位、東京書籍を2位とした。以上である。

教育長

では、仲山委員。

仲山委員

私は、光村図書を1位、教育出版を2位に推薦する。

教育出版は、情報量と内容が多くて、そこはいいのだが、書写を専門としない先生には少し扱いづらいのではないかと考えられる。

一方、光村図書のほうであるが、基礎基本を押さえやすく、直接書き込みをするページが適切に用意されていて、主体的に学習に取り組む工夫がされている、そういうふう感じた。

また、書き方動画のアングルに工夫がされていて分かりやすいと思った。

こういう点で光村図書は優れていると感じたが、教科書展示会のほうの意見の一つに、一部の文字にくせが強いという、そういう意見があって、私はそこまでは分からないのだが、ただ、総合的に評価すると光村図書を推薦する。

以上である。

教育長

それでは、私から申し上げます。

私も光村図書、これは第1評価のみにさせていただきたいと思う。

鉛筆の持ち方について、私、昔は無理やり右利きに直されたというふうなことがあるが、今は自由である。どうしても右利きの方用に全て、固定電話機とか、自動改札とか、自動販売機とかあるが、今はそういう時代ではない。そこに左右の利き手に対する記載が充実している。これが1点。

それから2点目であるが、SDGsについて言及がされていて、書写のごみをゼロにするというような、そういうところがある。書き損じたものとか、様々なものについて、いわゆるごみの減量についての言及がされている。

それから、先ほど国語科は光村図書になったが、国語と併用することによる相乗効果が期待できるという点で光村図書とさせていただいた。

以上である。

それでは、ここでまとめたいと思う。

私も含めて、全員、光村図書ということであるが、そのように確定させていただいてよいか。

委員一同

はい。



教育長

それでは、書写については、光村図書とする。  
次に、社会科である。  
それでは、次は中田委員から願います。

中田委員

私は、教育出版を選んだ。

社会は、暮らしの中で必要となる知識を修得されたものの評価だと考えている。興味深く読める工夫があるものを選んだ。

教育出版は、巻頭が写真と吹き出しの言葉で、全学年を振り返ってから当学年で学ぶことを記載している。社会で使う見方、考え方で学習するときのポイント、ほかの教科との関連を示していて、総合的に学習を進めていくことが一目で分かる。学習のサイクルも、つかむ、調べる、まとめる、つなげる、そしてまた最初のつかむに戻っていくという円になっているため、繰り返し学んでいくことが分かりやすいと思った。

学びの手引き、キーワードが黄色の背景で目につきやすく、学年が上がるごとにその内容も増えていくこともいいと思った。

「もっと知りたい」という項目では、3年生の「地図記号って何だろう」は、基になったものの図があり、郵便局を表す記号が時代によって移り変わったことの記述があり、また、売上を増やすための工夫など、楽しく読むことができた。

他学年においても、「もっと知りたい」が随所にあり、資料集のようで情報量も豊富なため、より発展した深い学びに働きかけていると思った。

5年生の「森は海の恋人」では、森や川の自然を守ることが、海を豊かにし、水産資源を守ることにもつながるというページも心に響いた。

4年生の「水はどこから」の単元で、自分が1日に使う水の量、家族で使う量を計算して知ることによって、学校で使う水の量を調べて、どうやって大量な水道の水ができるのかなど、ほかの単元も含めてページ数が多いが、その分、質問内容が濃く、説明も具体的で、興味を持って主体的に学ぶことができると思った。

また、5年生の「自然とともに生きる」単元では、豊かな自然と災害、見開きになっているが、自然と災害は隣り合わせになっているということで、自然災害への関心が高まるのではないかと思った。

巻末には、「学習を振り返ろう」で、当学年で学びの確認をしている。

以上で、私は教育出版を選んだ。1つである。

教育長

ありがとう。  
それでは、岡田委員。

岡田委員

私は、教育出版を1位、東京書籍を2位として推薦したいと思う。

教育出版では、つかむ、調べる、まとめるということがしっかり区分され、調べ方もとても分かりやすいと感じた。さらに表を利用した話し合い活動も計画されるなど、とてもよい構成になっていると思った。

また、6年生の武士の政治において、学習課題の設定は改善点も感じたのだが、明確な課題となっていると思った。

「まとめる」のところでは、新聞づくりを行うなど工夫されたまとめになっている。単元を通して一貫した追求となるような内容になっている点はとてもよかったと思う。

また、単元の導入部で、みんなでつくった学習問題が設定されていて、単元の終末で、その問題を振り返り、学習をまとめるようになっている展開もとてもよいと感じた。

東京書籍は、3年の冒頭部のまちの様子学習で、全体的に課題文が多くて、まちの様子について調べてみたいことを話し合い、調査項目を決める、そういうものがあつたのだが、これもとてもよいと感じた。

また、3年生の暮らしを守るの学習で、つかむ、調べる、まとめるの区分がよいと思ったが、総合的に見て、教育出版を1位、東京書籍を2位として推薦したいと思う。

以上である。

教育長

では、仲山委員。

仲山委員

私は、教育出版を第1位、日本文教出版を第2位に推薦する。

理由は3件ある。

まず、どの教科書も工夫が凝らされているが、その結果、1ページに含まれている情報量が多くなり、レイアウトや配色が込み入り、全体的に読みづらいと感じた。その中で比較的読みやすいのが教育出版であった。

それから、教育出版は、白黒写真をカラー化してあり、これはすごく効果的だったと思うが、その結果、戦争の残酷さと悲慘さが非常に強く伝わってくる。

それから、領土問題の記述において、客観的な記述に加え、平和的な解決の必要性を記述している。この点も評価した。

そういう理由で教育出版を第1位に推薦する。

教育長

では、坂口委員。

坂口委員

私は、教育出版1位、東京書籍2位という順に選ばせていただいた。

今までの3人の委員の方々の意見も、本当にそうなのだが、私は特に4年生が16ページにわたって、ごみの行方ということについて、あらゆる角度から調査して

いる時間が、本当に深く掘り下げて問題解決につながる学習が進められていることに感動した。そして、その後、水の問題、先ほど、中田委員が触れたような、そういうことも本当に深く分かりやすくテーマを取り上げていること、全てがそのようなことに行き届いている教科書だと思った。写真とか絵とかグラフなど、二次元コードを含めた資料もそれに関連づけ、読み取る力を育てるし、これは対話的に学びの手引きに従って、言語表現力も広がるのではないかと思った。

歴史の扱いについて、今触れられたように、やはり過去の白黒写真をカラー化して、より分かりやすい写真にしていることも大変よかったと評価したいと思う。

東京書籍のほうも、問題解決的な学習に非常に取り組んでいる。例えば、庄内平野を大きなテーマとして取り上げ、米づくりからのあらゆる関連問題に触れている総合的な学習は非常に光っていたと思う。

以上である。

教育長

では、私、申し上げます。

私は、東京書籍を第1位、教育出版を第2位と評価した。

まず、東京書籍であるが、歴史編と政治・国際編という二つに分野を分けて、しかも5・6年生については分冊されている。軽量化、子供たちの負担に配慮されているということ。それから、言葉の解説と学習問題が随所に出てきて、理解を深めることに役立つのではないかと思ったことである。

それから、第2順位の教育出版については、まとめる段階でおのおの学習問題が掲載されており、折に触れてそこで理解が深まるだろう。

それから、ほかの委員からもあったが、白黒写真がカラー化されていて、ある意味ではリアリズムが出てきていいかなと思ったことである。

一つ気になったのが、平塚らいてうさんに対する記載で、「元は女性は太陽であった」と書いてある。たしか「元始、女性は太陽であった」と書いてある。「元始」のほうだと私は思うのだが、そこが少しやわらかくし過ぎたのかというところは気にはなったが、いずれにしても第2順位とした。

以上である。

そこでだが、私を除く4人の委員は教育出版ということであったが、私も第2候補と入れているので、教育出版を採択するということでよいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、社会科については、教育出版を採択することとする。

それでは、次は地図である。地図をお願いします。

岡田委員から。

岡田委員

私は、帝国書院を第1位、東京書籍を第2位に推薦する。

地図は、2社あるが、2社とも児童の興味を引く地図をつくっていると思った。例えば、東京書籍では、マップでジャンプコーナーを設けたり、帝国書院では地図マスターを掲載したりして、2社とも楽しみながら地図に触れられるように工夫している点はとてもよいと感じた。

さらに、帝国書院の特徴であるが、明るく淡い配色をしたり、字の大きさと読みやすさしたりしている点がとてもよかったと思う。

また、広く見渡す地図と細かく記載している地図の使い分けがしやすいように工夫されていて、発達段階によって興味関心を持って地図に親しめるのではないかと思う。

方位の説明が極めて簡潔に整理され説明されていて、児童は理解しやすいだろうと思った。

また、「日本の首都・東京」というページがあるが、その次のページには江戸時代後期の地図が掲載されていて、現在と江戸時代の東京の姿の変化が一目で分かるようになっていて、児童は興味を深めるといった。

このような点を東京書籍の地図と比較したときに、東京書籍の地図も児童の発達段階や興味関心を喚起するところが見られたが、私としては、第1位に帝国書院を挙げた。

以上である。

教育長

では、仲山委員。

仲山委員

私は、帝国書院を第1位に推薦する。

日本地図に立体感があり、色の濃さ、文字の大きさ、情報量が適切であり、この結果、二つを比べたときに見やすくなっている。さらに、見やすくなった結果、想像力が動きやすいのではないかと思う。

また、江戸時代の地図もあり、歴史の勉強において役立ちそうだと感じた。

さらに、世界地図に大気圏が現実的な厚みで描かれている。これは環境学習の際に必要な地球に対する正しい感覚を身につけるのに非常に有効であると思う。そういったところを評価して、帝国書院を推薦する。

教育長

では、坂口委員。

坂口委員

私も帝国書院を選んだ。

地図の情報については、本当に複雑で多岐にわたるが、この帝国書院の場合は、小

学生に必要とする事柄を上手に取捨選択して、地図全体がすっきりと表示されている。非常に見やすく、興味関心を起こしやすくなっている。

地図マスターコーナーでは、子供が楽しみながら地図を学んでいこうとする配慮がなされているというところを選んだ。

以上である。

教育長

では、中田委員。

中田委員

私も帝国書院を選んだ。

皆さんと同じで、全体的に文字や色が淡くて見やすくなっていた。まず、広く見渡す地図で日本の全体像を捉えてから、ページを進めていくと、詳しく縮小された地図へと構成されているため、子供たちが調べやすいように配慮されていた。

巻頭の日本の地図では、地方ごとに特産物や名勝を分けているため、一目見て分かるように工夫されていた。

主要都市の中心部の拡大ページがあり、商業地、住宅地、工業地で色分けされていて、どの地域に産業が発展しているかが一目で理解できる。

江戸時代の地図もあり、国名、街道名が記載されていて、歴史と関連づけた学びが予想できた。

世界地図でも、アメリカ合衆国が州ごとに色分けされて、州名も載っているため、すぐに探すことができる。

巻末では、自然災害の備え、防災の取組のページも設けていて、どこで災害が起きたのか、地形の確認をしながら学ぶことができる。防災マップの作成手順もあり、防災への意識づけをしている点も評価する点であった。

以上である。

教育長

それでは、私から。

私も帝国書院を第1候補として、1点である。

まず、SDGsについてを見開きで掲載がされていること。

それから、132ページということで、他社より2割くらいページ数が多いように感じた。

それから、各地方の主要地域の拡大図が掲載されていて、各地区ともに非常に分かりやすくなっている記載だと思う。

以上で、帝国書院としたところである。

では、ここでまとめるが、地図について、全員、帝国書院だったので、帝国書院を採択することによりか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、地図については、帝国書院とする。  
次に、算数である。  
では、仲山委員から願います。

仲山委員

算数は、理解に基づいた知識や技能を修得することが特に大事な科目であると思う。そのためにふさわしい教科書として、東京書籍、教育出版、大日本図書、日本文教出版は、総合的には優劣つけがたいと感じた。ただし、その中で東京書籍を第1位に推薦する。

その理由としては、以下のとおりである。

まず、つまずきやすいと言われている5年生の内容について、考え方の展開に無理がなく分かりやすいと考えられる。また、レイアウトがすっきりしていて読みやすい。それからさらに、吹き出しの内容が適切で、児童が考える余地を残している。そういう点で東京書籍を推薦する。

教育長

1点で。

仲山委員

1点である。

教育長

坂口委員。

坂口委員

私は、1位に東京書籍、2位に大日本図書を選んだ。

東京書籍は、ICT教材が1,400余りと非常に多いが、質も高く種類も豊富である。タブレットを利用すると個別学習にも的確なことがたくさん利用できる。オープニングガイドがきちんとある。数学的な見方、考え方を目に見える形で学ぶことは大変有用かと思う。発達段階に合わせたバランスよい配置、構成になっている。

「今日の深い学び」、単元プロローグで、学習内容と生活との関連に合わせた題材は、説明文も長過ぎず、子供の思考に合っている。数学的な考え方、見方が学習され、終わりに、「つないでいこう算数の目」ということで、深い学びや対話的な振り返りが設定されていることもいいかと思った。

大日本図書も、今回、新登場の最頻値については、丁寧な説明で非常に分かりやすくなっている。今後のプログラミング的な思考を駆使した実践が必要とされる学習、グラフを読み取って統計的な視点を学ぶにはふさわしい教科書かと思う。

振り返りの学習に触れ、算数的な学びを通して幼保小連携、小中連携への配慮もしてあるところに非常に評価をした。

教育長

中田委員。

中田委員

私は、1番に学校図書、2番に東京書籍を選んだ。

学校図書は、他社と比べて横幅が大きいので、余白も多く見やすく感じた。1年生は扱いやすいのではないかなと思う。

他社のようにスタートブックはなかったのだが、すぐに「足し算」という言葉は使用せず、数に慣れるように導入部分があった。全体的に淡い色が使用されていて、わかりやすい印象だった。

考え方monsterというキャラクターを使用して、見方や考え方を楽しく教えている。

「ノート名人になろう」では、名人ポイントとして分かりやすく説明しているため、教員も指導する際に活用しやすいのではないかなと思った。

問題提起として、「？を発見」から単元が始まり、今日の学び、まとめ、「できるようになったこと」で復習をして、さらに考え方monsterで振り返って、「？を解決」、「つなげたいな」で深い学びへとつなげていっていた。

「なるほど算数」は、発展問題もあり、また、中学校への架け橋として、6年生に別冊があり、中学校への準備に不安がないように配慮されていた。

東京書籍は、1年生の導入として、「はじめようさんすう」というスタートブックがあり、数字を書くときの書き始めが分かるように点がついていて分かりやすかった。

全体的に淡い緑色を使用しているのも、算数、数字という固い印象を避ける効果があるように思った。

学年初めの「学びのとびら」の「マイノートをつくらう」も、見開き左がノート記述例、右にポイントが書かれていて、全体的にすっきりとして見やすかった。

学習の仕上げで単元のたしかめをして、「つないでいこう算数の目」でさらに復習問題で振り返りをしてから次の単元に移るように工夫されていた。

さらに、チャレンジという問題も用意されていて、発展した問題に取り組むこともできる。

6年生の最後に、「算数卒業旅行」として、中学校体験入学コースなど、卒業前に楽しめるページを設けているのもいいと思った。

デジタル教科書は、他社にはない書き込むことができるものが東京書籍にはあり、自宅での学習に有効であると思った。

以上である。

教育長

それでは、岡田委員。

岡田委員

私は、東京書籍を推薦する。1社のみである。

算数の教科書では、私は子供が主体的に学ぶ機会を設定しているか、子供のつまずきを把握しながら授業を展開しているか、身近な例を挙げて算数を学ぶ意義を理解させているか、様々な考え方で問題に対処しているか、QRコンテンツで児童の主体的に学ぶ姿勢を支援しているかといった観点から教科書を見てきたが、この観点からは、各社の違いがよく表れており、私は東京書籍を第1位として推薦したいと思った。

もう少し詳しく理由を述べさせていただく。

東京書籍の教科書を見ると、2年生の「足し算のきまり」で、足す順序を変えても答えは変わらないと述べるだけではなくて、2人の児童の考え方を取り上げて、児童が調べて、児童自身はその規則性を見つけ出していた。

3年生の分数の学習で、同じ3分の1なのに、なぜ長さが異なるのかということを確認させながら分数の学習に入っていくことは、とても素晴らしいと思う。子供のつまずきを把握しながら学習を進められる工夫があった。

5年生の分数の足し算、引き算で、二つの分母が異なる分数の大小を考えさせる際に、牛乳を例に取り上げるなど、身近な例を挙げて考えさせる工夫は各社ともあったが、QRコンテンツで練習問題や学習の補助を行えるようになっていて、東京書籍はとても充実していると感じた。

また、分母の異なる帯分数の計算で、2人の児童による異なる計算方法を取り上げ検証していく構成があったが、これはとてもよかったと思う。この教科書では、数人の児童が異なる求め方を行った上で、規則性や解き方を解説していて、児童の多様な考え方を取り上げているところがとてもよいと考えた。

以上である。

教育長

では、私、申し上げます。

私は、第1候補を東京書籍、第2候補を教育出版としたいと思う。

まず、東京書籍だが、小学校6年生分以外は上下巻に分冊されている。それから、まとめやねらいが分かりやすく、デジタルコンテンツは約1,450、他社よりも2倍から3倍ぐらいと豊富であること。それから、単元の導入ごとに、問題解決、それから練習と評価、つまずきへの対応が用意されていること。それから、補充問題が多くて、保護者負担軽減からすると、ドリルを買わなくても十分この教科書に書いてある補充問題で学習ができるかと思った次第である。

2点目である。教育出版である。

「広がる算数」というコーナーがあるが、算数に興味を持たせるという内容であること。それから、6年生で既に $x$ 、 $y$ や $a$ 、 $b$ 、 $c$ 等を使って、中学校への数学に向けた表記がされていること。それから、2年生の九九は段ごとにページが分かれてい



て分かりやすいこと。たしかめのページの前に発展問題があり、たしかめのページに、また類似問題があるということで、発展が期待できること。最後、巻末に「Let's Try」というコーナーを設けて、これも中学校への数学に向けた誘いになっているという点で第2候補にしたものである。

それでは、ここでまとめたいと思う。

中田委員以外、全員、第1候補を東京書籍とした。中田委員も第2候補を東京書籍としている。したがって、算数については、東京書籍を採択することでよいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、算数は、東京書籍を採択する。

では、次に、理科である。

坂口委員。

坂口委員

理科は、第1位に学校図書と、第2位に東京書籍を選ばせていただいた。

学校図書であるが、キャラクターを使って理科的な考え方、見方の問題解決の過程を示しているのが非常に分かりやすい。

6年生の構成は、大地、生命、物の働き、性質などの取組が写真とイラストでバランスよく配置されている。実験結果をグラフや表で表し、操作に当たり、これは「危険」というふうに赤字で安全面を伝えている。

各学年の表表紙は学習に関するテーマの写真、裏表紙にはSDGsのテーマを扱っている。これも新しい、もっと知ってほしい情報という形で出版社の意図が分かる。

単元の終わりに、「もっと知りたい」で、学習したことが、どのように発展し、活用されているかも紹介してあるところがいいと思う。

東京書籍であるが、こちらもキャラクターを使って理科の見方、考え方を示している。内容がよく精選されているので、学習の流れがつかみやすい。観察ページや実験の操作には、この社も、もちろん「危険」という赤文字がきちんと出ている。実験ごとに、手順、道具の扱い方などが事細かく紹介されているが、学校側で大変いいだろうと思ったのは、例えば、この実験には理科室を使用するという時間帯が、ほかの学年と合わないような配慮がしてある。その辺はよく技術的には分からないのだが、そういうことも理科の学習の教科書の中にあるということに非常にびっくりしたし、それはいいことだと思った。

表紙にもデジタルコンテンツにつながるコードがあり、ここにつながると、本当に様々な資料を見ることができる。

以上である。

教育長

それでは、中田委員、お願いします。

中田委員

私は、1番に学校図書、2番に東京書籍を選んだ。

理科は、自然界における不思議だと思えることが解明され、その原因を知ることができる楽しい教科書である。その楽しさを伝えてくれる、学びの中でいかに興味が持てるような配慮をしているものとして2社を選んだ。

学校図書は、学年の初めのページに「理科の世界を冒険しよう」や、理科モンスターによる随所の説明も、ゲームが好きな世代にはキャラクターを使用して子供たちに教科書を開ける楽しさという面で効果があるように思った。

また、小学校世代の保護者も同様、ゲームに関しては理解もあると考えられるため、親子で教科書を見る機会ができるのではと感じた。だからといって、内容が乏しいわけでもなく、実験も丁寧、詳しく説明されていた。

特に6年のボールに光を当てての月の説明、5年の雲の種類と天気、4年の電池の配列は、ページ数も多く分かりやすく思った。

6年生の植物の水の通り道の単元では、ホウセンカの茎の根本を半分に切って、青と赤の二色の色水を吸わせて、白い花びらが半分ずつに色が変わったことで、水の通り道を示した実験も面白いと思った。

理科は実験をすることが大事だと考えるが、実験結果が分かりやすく載っていることも教科書としての役割を果たしていると思った。

もっと知りたい、科学者を知ろうという学びをさらに深める記述もあった。

東京書籍は、表紙が斬新で、問いかけがあって、思わず中を開けてみたくなるような仕掛けになっていた。裏表紙に目次があり、教科書を開けなくても見たい単元を探すことができるよう配慮されていた。

写真やイラストが大きく見応えがあり、色も鮮明ではっきりと見えてよいと思ったのだが、生物が苦手な子供にとっては少し抵抗があるのではと思った。好きな子供には細部まで載っているため、図鑑のように楽しめるのではと思った。

問題提起も大きく、観察、まとめの流れの矢印も太く見やすく、実験もとても丁寧に説明されていて分かりやすく思った。

「理科の世界探検部」というのは、興味が広がる内容が盛りだくさんで、理科につながることを紹介していて楽しく読むことができた。

6年生では、中学にまで発展する内容も盛り込まれていて、理科が好きな子供には内容が豊富で満足できるのではと思う。

以上である。

教育長

では、岡田委員、お願いします。

岡田委員

私は、理科は東京書籍を推薦する。

理科は、児童が自分で学習課題を見つけて解決する学習が極めて重要な教科であると思う。特に新しい学習指導要領では、自分で見つけた課題や解決方法、実験結果などについて、議論したり、新しい結論をグループで探したりする授業が求められている。そのような授業を支え、児童の主体的な学習を支援できるQRコンテンツの充実度も加味しながら検討した。その結果、東京書籍だということである。

もう少し具体的に詳しい理由を申し上げるが、一つは、新しい学習指導要領の趣旨をしっかりと踏まえて内容を構成して、物質、エネルギー、生命、地球の区分に分けて教科書を明確に構成している。この捉え方が中学校、高等学校に行っても自然界をこの四つの観点から理解する、その基本的な部分がここの学習になるわけだが、これは理科教育の中で極めて重要なものだと思う。

二つ目は、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の中で、見通しを持って取り組む力の育成が強調されているが、教科書の冒頭部分に大きな分類、次の小さな分類を示して、この1年で何を学習するのか、これが把握できるような構成になっている。学習をしていくと、自分が今、一体何を学習しているのか、児童が見失いがちになるわけだが、これを振り返ることで自分の学習の位置が分かるかと思う。

三つ目は、「たしかめよう」にあるQRコンテンツの内容が、問いの答えだけではなく、画像を用いて子供に考えさせようとしていて、その内容も豊富であった。

また、「たしかめよう」にある「考えよう」では、どのような情報が必要か、さらには子供が見いだした規則性を基にして、例えば、2日後の大阪の天気を予想させる工夫があって、これはとてもよいと感じた。

QRコンテンツに話合いの例があり、主体的・対話的な学習にすごく適しているというふうに考えた。

以上が推薦の理由である。

教育長

では、仲山委員、お願いします。

仲山委員

私は、東京書籍を第1位に、学校図書を第2位に推薦する。

東京書籍を選んだ理由は、以下のとおりである。

読みやすく考えやすい。それから、問題提起の仕方がよく、導入から考察まで、図まで含めて無理なく自然に読み進んでいくことができる、そういう構成になっている。それから、写真やイラストもきれいで、自然に対して興味と関心が湧くのではないかとと思われる。

また、研究に関して、テーマを探しやすい記述になっている点も優れていると思う。

ただ、若干残念なのは、環境分野において、プラスチックごみ問題の記述が少な過ぎるのではないかと考えた。

一方、学校図書も話の流れが非常によいのだが、レイアウトが少し複雑である点、それから、思考をなぞり過ぎている、そういう点が欠点として挙げられる。

そういったことを考慮して、東京書籍を第1位に推薦する。

教育長

では、私だが、私は、東京書籍を第1位に、それから学校図書を第2位としたいと思う。

まず、東京書籍であるが、理科とSDGsの接続の記載がよく書いてある。それから、1年間の振り返りが必ず巻末に学年ごとにあって、その振り返りが非常に充実していること。それから、全体的に言えるが、文字が大きくて、最も冊子としての紙面が大きく見やすくなっている。それから、軽量の紙を使用して重量の軽減についても十分な配慮がされていること。それから、大地のつくりという小学校6年生のコーナーがあるのだが、2021年の軽石の写真が掲載されていて、一番アップ・トゥ・デートな写真を記事として掲載されていること。小さい記事であるが。それから、6年生の最後の巻末に近いところで、宇宙飛行士の山崎直子さんのエッセイ「地球に生きる皆さんへ」ということで、そういうメッセージが書いてある。

これをもって東京書籍を第1候補とする。

第2の学校図書については、まず、巻末に索引が掲載されていて分かりやすい、アクセスがしやすいこと。それから、ハザードマップについての記載が結構充実していること。さらに、考えよう、調べようというコーナーで、牧野富太郎氏の話が出ていること。それから、科学者のコーナーでiPS細胞の山中伸弥先生の話があるというようなことをもって考えている。

以上をもって、第1、第2順位の説明とする。

そこでまとめるが、東京書籍が3名、それから学校図書が2名である。坂口、中田委員について、第2候補が東京書籍であった。私を含めて3人は、第1候補が東京書籍であるので、したがって、東京書籍を理科の採択としてよいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、理科については、東京書籍を採択することとする。

では、次に、生活科である。

中田委員から願います。

中田委員

教育出版を1番として、啓林館を2番に推薦する。

教育出版は、大判のA B判を有効活用して、写真とイラストがバランスよく配置されていて見やすくなっていた。

上の「はじめのいっぽ」の単位では、入学してからの具体例が写真で解説されている。でも、それは入学前からしていたよ、入学前から好きだったよと、下のイラストを見て安心することができる。学校生活で勉強が始まるという不安を抱かせないようにしている配慮があった。

目次の単元がページの下に載っていて、今、どの学習まで進んできているのか、次にどの学習をするかを常に意識できるため、教員も見通しを立てて授業を進めることができると思った。

単元ごとに「わくわくスイッチ」が設定されていて、「はい」、「いいえ」で進んでいくのだが、「いいえ」に進んでも大丈夫だと思えるようなアドバイスが記述されていた。必ずしもみんなが最初から楽しく学校生活を送れるわけではないよというきめ細やかな配慮があると思う。

ページ下の「はっけんロード」も、ずっとたどっていく楽しみがあり、教科書は次のページに進むという作業を児童が進んでできることが必要だと考える。

「かんがえまとめいる」で低学年が好きな迷路を使ったり、「ぐんぐんはしご」でどこまでできたかをはしごの高さで確認をしたりと、随所に興味を引く工夫が取り込まれていた。

巻末の「学びのポケット」で、ほかの教科ともつながっていることが分かるように示されていた。

啓林館は、「すたあとぶっく」として導入部分があり、「保護者の皆様へ」の記述があり、一緒に学校生活が始まることで、子供と同じように心配している保護者への配慮があった。

ページの右下の端に、見つけたことを聞いてほしいな、工夫すると楽しくなるねなど、矢印で次のページをめくりたくなるようになっていて、次のページにどんなことが待っているのかを期待させる効果があった。

夏の遊びのしゃぼんだまをしている様子の写真もきれいで、子供たちが楽しんでいる様子がよく伝わってきた。プールが苦手でも、こんな水遊びが待っているなら夏も楽しみにできるのではと思った。

「びっくりずかんLIVE」として、不思議だな、すごいぞという内容で、「はるのずかん」、「たねのふしぎ」など、写真もきれいで、ページの上に次の「びっくりずかん」の内容とページが載っているため、興味がある子供は先に読み進めることができる。

巻末には「かくしゅうずかん」があり、1年間を振り返り確認することができる。

下巻で、「わたしの野さい」、「大切な命いただきます」と食べ物を大事にする意識づけの記述も良かったと思った。

以上である。

教育長

続いて、岡田委員、お願いする。

岡田委員

私は、生活の教科書は1位に教育出版、2位に東京書籍を推薦する。

生活科の教科書で決め手になったのは、練馬区の施設を幾つか地域教材として採用している点が大きく採択に影響した。生活科という教科の性格を考えると、地域に密着した教材を使った点は評価したいと思う。

教育出版の教科書では、生活科の導入部で行う学校探検で、「なにをかんじたかな」というものがある、子供の情報交換会を設定している。個人のことだけにとどまらず、このような活動を入れていることは、とてもすばらしいと、他社にはあまり見られない特徴だと感じた。

また、「わたしのはな」の学習では、アサガオのいろいろな写真を見せているのは他社と同様なのだが、ページごとに大きな字で発問が書かれていて、学習のねらいがしっかり提示されていた。また、写真の掲載の仕方もとても丁寧で見やすい解説となっていた。

学習のまとめの部分で、「のこしたいな」、「つたえたいな」、「おもいでありがとう」のコーナーがあって、今までの活動を振り返ることができる展開となっている。この振り返り活動がとても私は大切だと考えており、これも大きな理由の一つになった。

東京書籍の教科書も話し合い活動の絵はあるので、とてもいいなと思ったのだが、活動を誘発するという点では、教育出版にやや分があると思った。写真やイラストでは、写真が大きく具体的な活動を例示したり、ダイナミックな活動の写真を掲載したりして、子供が活動したいという思いを喚起できるだろうなと思った。

各社とも多様な学習活動や体験活動の中で、見つけたり、試したり、工夫したりすることを通して、生活に必要な機能や習慣を身につけ、気づきを多様な手段で表現する活動が工夫されていたが、先ほど述べた理由から、第1位に教育出版、第2位に東京書籍を推薦する。

以上である。

教育長

それでは、仲山委員、お願いします。

仲山委員

私も第1位に教育出版を推薦する。第2位は東京書籍と啓林館、両方推薦する。低学年の教科書なので、まず親しみやすいものがよいと思って、そういう点で評価した。

また、生活科では、学習指導要領に載っているが、児童が身近な人々や社会、自然に直接働きかける総合的な行為が行われることを重視している。そういう観点からも身近な施設が取り上げられている教育出版を第1位に推薦する。

それから、全体的に内容の欠点が少なく、軽く持ち運びやすいという点も評価した。以上である。

教育長

それでは、坂口委員、お願いします。

坂口委員

私は、第1位に啓林館を選んだ。そのほかは、教育出版も光村図書も第2位で同じように優れていると思った。

啓林館を選んだのは、1年生に学校生活に対する入学前のことに触れて、学校も楽しいよという導入に工夫があった。学校生活に入っていく、例えば、手洗いの決まりごとなどのページ部分は、ほんの少し小型化してここを開きやすくしてあった。漫画タッチのキャラクターも登場し、季節の変化はQRコードでセミの声をリアルに聞くとか、動物、動画などが適当に配置されていて、それも分かるように工夫してある。

わくわく、ぐんぐん、いきいきというふうに段階で進むことで、自分も成長し、まちのすてきな大人たちとのインタビューもあり、自分も何かにチャレンジしようという自立した心が養われていく流れが非常に自然に見られた。

練馬区の野菜、地域行事も紹介されている。

下巻のほうの巻末には、自分の成長を確認できる幼児期から次の段階へのステップがずっと確認できるような工夫がなされていて、いいかと思う。

教育出版も、二番目に挙げたが、大変優れた生活の教科書だと思う。やはり子供たちの心に響くように楽しい学校生活の導入の工夫が見られるし、キャラクターに人気者の「いぐら」が登場することで関心を集めている。

QRコードでは、動植物の情報に加えて、リンクも非常に使いやすくなっている。入学以前に親しんだ絵本、写真などから、素直に小学校生活へつながることもできる。

中学年に向けて、今度、理科や社会や外国語など学習は広がるが、その備えも進められる流れが見られる。

練馬区の情報も上下巻に取り上げられていた。

光村図書も、写真と絵の組合せが抜群に子供たちを惹きつけるレイアウトが美しいと思う。キャラクターは特にないが、ヨシタケ漫画が登場して親しみを持たせているし、他教科との関連に興味を持たせる導入が非常にある。昔から伝わる季節の行事、草花での遊びなども紹介されていて、魅力があると思った。

## 教育長

それでは、私から。

私は、第1順位を教育出版、第2順位を光村図書としたいと思う。

まず、教育出版だが、この生活科は1年生限定で、社会と理科のような内容のもので、取りわけ学校に入ってから楽しさを味わってもらおうということから入っていて、「がっこうをたんけんしよう」とかというようなものは、他社とも記載がされている。

取りわけ教育出版については、表紙に車椅子の子供や外国人の子供を表紙の中の写真に入っていて、随所に出てくる。そういった意味では、人権と多様性について、支援を要する人、また、他者に対する配慮がされていると思う。それから、「やさいとくだものクイズ」というものがあって、果物や野菜の断面図の写真が掲載されている。包丁を使って調理でもしないと、なかなか小学生の低学年に断面図を見る機会はないと思う。そういった意味では、特徴的なものだと思う。それから、同じまちの風景を春夏秋冬同じところで記載がされていて、同じ風景を4回見る、印象づけるのには確かに有効だなと思った。それから、童話やワークシートや図鑑が充実していること。それから最後に、地域教材として、光が丘図書館等が7枚ぐらい、練馬区の地域

教材が多く掲載されていることも特徴だと思う。

したがって、第1順位としたいと思う。

それから、光村図書であるが、「どうぐをただしくつかおう」という記載があって、はさみ、きり、カッターの安全な使い方について、安全性についての配慮の記載があるということ。それから、物を大切にしようというようなところが記載されている。それから、「はるのなかまたち」など、四季折々の動植物についての写真とか説明が充実していること。それから、人権と多様性については、所帯や多様な家庭環境への配慮がされている記述が見られること。

以上としたいと思う。

それでは、まとめたいと思う。

坂口委員が第2候補になっていたが、他の委員が、全員、教育出版を第1候補としたので、生活科は教育出版を採択するというところでよいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、生活科については、教育出版を採択することとする。

次に、音楽である。

岡田委員から願います。

岡田委員

私は、教育芸術社を第1位、教育出版を第2位として推薦する。

教育芸術社の教科書は、1年間の見通しを持つことができる学習マップや1年間の学習の振り返りができる振り返りのページが設けられていて、児童が自分を振り返りながら主体的に学習ができるように工夫されている点がとてもよいと感じた。

また、児童が学習のめあてを自分でつかめるように、「考える」、「見つける」、「歌う」、「えんそうする」などのマークを示し、思考力・判断力・表現力や知識・技能に関わる内容を意識しながら学習を進められるよう工夫している点もよかったと思う。

一方、教育出版では、リズム、音域、歌詞の内容や配列が発達段階にふさわしい内容で、系統的に配列されている点がよいと思った。

2社ともに、よい点はそれぞれあったが、QRコンテンツを用いて演奏を聴くことができ、いつでもどこでも学習できるという、こういう利点を考慮すると、教育芸術社のほうがよいと考えた。

以上である。

教育長

それでは、仲山委員、願います。

仲山委員



私は、教育出版を第1位に、それから教育芸術社を第2位に推薦する。

学習のレベルを比べると、教育芸術社のほうが高く、教育出版のほうは楽しむ要素が多いと、そういうふう感じた。音楽は、音楽活動の楽しさを体験することを通して豊かな情操を培うことが最も大事であると、そういうふう考えられるので、そのことを妨げないように、あまり難し過ぎないほうがよいのではないかと考え、教育出版を推薦する。

また、教育出版は、曲に込められた思いを引き出すのに使われる写真やイラストが非常に適切であると、そう感じた。そこも加味して教育出版を推薦する。

以上である。

教育長

それでは、坂口委員、お願いします。

坂口委員

私は、教育出版のほうがいいと思う。

冒頭の「こいのぼり」の歌があるのだが、その歌詞に合わせたイラストで表現されている。子供にも非常に理解できる大きな口を開けた勢いのあるこいのぼりの場面は非常に魅力的である。

発達段階に合わせて鍵盤ハーモニカの扱い方、リコーダーについて指の置き方など、見開きページで示していて分かりやすい。オペラ「魔笛」の紹介も、本格的な劇場写真で全体の雰囲気が分かるので、こういうものがオペラなのだということ、そういうことで理解できる、丁寧だと思う。

鑑賞したことを言葉で表現する学習も導入されている。音楽活動に必要な思考力・判断力・表現力、全て写真などを添えて、正解を示すわけではなく、自分で判断して表現し、考える学習へと進むような指導が見られることがいいかと思う。

学年ごとにふさわしい教材が頻出されていて、少しずつステップアップして音楽を楽しんでいく工夫もある。

以上である。

教育長

では、1点ということでしょうか。

坂口委員

はい。

教育長

では、中田委員。

中田委員

音楽は2社しかないなので、どちらも甲乙つけがたかった。

幼稚園や保育園で歌を歌う、楽器を演奏するという経験はしていたと思うが、それを踏まえて、1年生の教科書は、どちらも楽しいものになっていたのだが、教育芸術社を推薦する。

その中で私が気づいた点である。

教育出版は、1年生でドレミの体操として、低い音から高い音へ音階の説明を必ず表現しているところが分かりやすいと思った。

鍵盤ハーモニカの指導が、4ページの説明がある中で、見開き3ページにわたって鍵盤ハーモニカのイラストがあり、それに音名も書かれていて見やすく思った。

3年生から始まるソプラノリコーダーは、基本的なことの説明も分かりやすかったのだが、専門用語をあえて指導していないところが少し気になった。

「音楽のもと」として、右上に学習する音楽の用語の記載も、今、学習している内容がその都度確認できるようになっていた。

学年が上がると、メモの記入欄も設けているのだが、小さいため、あまり活用できないように思った。

表紙も含め、イラストは個人的に好みのイラストだった。日本の歌、みんなの歌が見開きになっていて、景色の写真は見事だと思った。

私が推薦する教育芸術社は、1年生の鍵盤ハーモニカで、「ド」の位置を覚える歌として、「どんぐりさんのおうち どこでしょう ふたつのおやまの ひだりがわ」ということで、黒鍵をお山と見立てて、二つの黒鍵の左側が初期に「ド」と「ファ」を間違えやすいため、あえて二つの黒鍵の左側が「ド」であるというこの歌を導入しているのがいいと思った。

あと、「ことばでリズム」では、トマトがタンタン、エビフライはタタタタンと身近な食べ物で拍をとるとというのがイメージしやすいと思った。

3年生からのソプラノリコーダーの指導では、先ほど、専門用語がなかったという教育出版と違って、マウスピース、トーンホール、ヘッドピースなど専門用語で記述されていた。英語の学習も始まっている今、それほど難しいものとは思えないので、教育出版では、吹き口、音孔、頭部管という記載があり、そのほうが教えるのに難しいのではと思った。

教科書に出てくる印、マークでは、「考える」、「見つける」、「えんそうする」、「つくる」、「歌う」などが随所に提示されているため、学習内容を振り返ることができる。

音楽という教科は専科であり、教員によって、得意、不得意によって授業が偏らないようにするためにも、このような課題があるほうがいいのではないかと思う。

6年生の教科書の中で特に気に入った箇所があった。「音楽のもっている力」は、一体感を味わわせる力（コンサートやライブ会場）、人と人をつなぐ力（遠く離れた人と動画等で共有）、大切なメッセージを伝える力（復興への思いを歌にする）、そういう三つのものがあるという箇所である。子供たちにこのメッセージを伝えてほしいと思い、教育芸術社を推薦する。

ただ一つ気になったのは、1年生の教科書で音色を言葉で表現しているところがあった。トライアングルで、チーン、チリリン、シャランと文字で書いてあるのだが、口頭で教員が指導する際に使うことはいいと思うのだが、音色は個人が感じて聞

こえてくるものなので、固定観念を植えつけるのではないかと思う。音楽は、聴く、歌う、演奏するだけでなく、楽譜が読めなくても楽しめる、そして先ほどの音楽の持っている力というものを6年間かけて伝えてほしいと思った。

以上である。

教育長

それでは、私も申し上げます。

私は、第1候補を教育出版、第2候補を教育芸術社としたいと思う。

まず、教育出版は、全学年に英語の歌が取り入れられていること。それから、他の委員からもあったが、「こいのぼり」について、広大な写真が飾ってあって雄大に映ること。それから、全巻にわたって、童謡とか、わらべうたが各学年に掲載されていること。結構昔の懐かしいものも出ていた。それから、小4、5、6の巻頭に、小4はバレエの中村祥子さん、小5は狂言の野村萬斎さん、小6はピアノの辻井伸行さんのコメントが書いてあったところである。

そういった意味で、第1順位に教育出版とした。

第2順位の教育芸術社については、特に著作権に関する記述が非常に詳しく書いてある。それから、巻末に歌曲がかなり多く掲載されていること。これが特徴だと思う。

ということで、教育出版が第1位、教育芸術社が第2位としたところである。

それでは、まとめたいと思う。

皆さんのご意見では、教育出版が3名、教育芸術社が2名であるので、2社の選択になるが、3名の教育出版を採択するというところでよいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、音楽については、教育出版を採択することとする。

それでは、図画工作、仲山委員から願います。

仲山委員

図画工作が目指す学習指導要領に示されている三つの目標に対して、両社とも非常に工夫した題材を取り上げていて、実は私は、優劣をつけがたいという状況である。両方推薦する。

特に、コマ撮りのアニメーションは、友達とのコミュニケーション能力や共同作業の楽しさを知ることができる題材であり、とてもいいと思う。

また、道具の使い方に対する動画は大変効果的であると思う。

安全に関しては、両社とも非常に丁寧に記述していてよいのだが、両社ともここは問題だなと思うところがあって、糸鋸を使用する際の安全眼鏡の着用に触れていない。糸鋸は大変危険なので、安全眼鏡の着用についても、今後、ぜひ触れてもらいた

いなと思う。

そうすることで、現時点において、私は両方推薦するという事になった。

教育長

では、坂口委員、願います。

坂口委員

私も図画工作についての判断がなかなかしかなかったが、開隆堂を1位に選んだ。

なぜかという、開隆堂のそれぞれの表紙にも図画工作を楽しんでほしいという出版社のメッセージが入っていた。

例えば、1年生は「みつけたよ」として、ぐにゃぐにゃの世界、こういうものが、芸術というか、図画工作だよとか「わくわくするね」だいすきなメロンハウスとか、力を合わせて、ゆめゆめUFO、それから、つながる思い、写真とか、心を開いてできたらいいねと花に囲まれた鳥たち、そういうふうなメッセージがあり、それにふさわしい写真や絵が飾られていて、美術とか、図工や工作に入っていく子供たちに、そういう導入が、呼びかけがあるということに、すごくいいなと思った。

もう一つのほうの日本文教出版は、もちろんそれは当然だが、図画工作という表紙が1年生から6年生まで同じであった。その違いを見つけて、それでいいかと思った。美術作品の見方とか、広がりというのは、感じるとか、見つめるとか、そのイメージを浮かべる、そういうものも大変に導入がなされていたし、掲載されている写真の子供たちの表情が非常に自然体で好ましかったなと思う。友達と協力し表現する活動も、そういう活動があるし、子供目線の指導になるような工夫が見られるところが、僅かに開隆堂のほうが私の推薦したい本であった。

教育長

では、中田委員。

中田委員

私は、開隆堂を選んだ。

日本文教出版の「ずこうたいそう」や、1年生上巻の「すきまちゃんの すきな すきま」が面白くて楽しいなと思った。また、見開きになっている土のライブラリーというものもなかなか珍しいもので興味を引いた。教科書美術館、ミニアート美術館も載っていたのだが、全体的にページ数が少なかったことや、学習のめあて、使用する文房具の記載等もあったが、ちょっとインパクトに欠けていた。

開隆堂のほうは、学習のめあてにキャラクターを使用していて、子供たちが親しみやすい構成となっている。そのキャラクターが「くふうさん」、「ひらめきさん」、「こころさん」の三つのキャラクターが登場するのだが、こころさんは「心を開いて楽しく活動し、友達とかかわり、協力し合う力」と記述されていた。図工は個人で作るものだけでなく、他人の作品を見たり、大きな作品を作る際には、他人と相談して個人の得意な分野を出し合い、協力し合うことが大切だと教えてくれているのがとても

いいと思った。題材ごとに学習のめあてが記載されていて、取り組む際のヒントとなっているのもいいと思う。使用する文房具がカラーのイラストで分かりやすくなっていた。みんなのギャラリーも、地域の紹介があり、全国のアートを知る機会となる。職業紹介が1・2年生の下巻から、それぞれの巻頭にあり、また、5・6年生の下巻の巻末には、「未来につながる図画工作」として、図画工作からつながっていく職業の記載があり、漫画家やイラストレーターだけでなくクリエイティブな職業があるのだと教えてくれていた。

以上の点で開隆堂を選んだ。

教育長

それでは、岡田委員。

岡田委員

私は、1位に日本文教出版、2位に開隆堂を推薦する。

日本文教出版の教科書では、左ページの左上に学習項目と学習のねらいが明記されていて、写真の配列も整って見やすく、そのためどのような学習をこの時間にするのかつかみやすいと感じた。

また、児童が創造的に取り組むことができるように、多様な情景写真や参考作品が掲載され、自分の構想を広めることができるように工夫されている点がとてもよいと感じた。

一方、開隆堂でも、友達と表現する活動で、形や色使いなどを通して互いのよさを感じ合える題材があったり、身近な材料を使った題材から段階的に構想を広げていけるよう、系統的に題材を配列したりしているなどの工夫が見られ、とてもよいと感じた。

いずれの教科書も多様な色覚を持つ児童に配慮されたデザインで、児童が楽しく学べるよう、イラストや文字、背景の色合いなど、とても工夫されていると感じて、あまり大きな両社の差はないように思った。

安全面の配慮に違いを感じ、これが私の推薦の根拠となった。

例えば、3・4年生の教科書にある、きりで板に穴を開けるといふところの安全指導では、開隆堂は板にきりを立てて、そのまま穴を開けているが、日本文教出版のほうは、きりが突き抜けることを予測して、台の板の上にその板を乗せて穴を開けるなど、そういう細かな配慮の違いがあった。

また、彫刻刀の使い方の指導について両社を比較したところ、ほぼ同じ内容なのだが、日本文教出版のほうは、刃の前に絶対に手を置かない、そういう注意書きがあった。これはすごく大切だと思う。

のこぎりで板を切る安全指導でも、日本文教出版は、のこぎりで切った箇所を紙やすりで磨いて、とげが刺さらないような配慮をしていた。

安全指導においては、このようなきめ細かさがとても大切だというふうを考える。どんなにいい授業でも事故が起こっては駄目だということで、安全指導というものをすごく私は重視しており、そういう観点から日本文教出版を第1位に推薦する。

以上である。

教育長

では、私である。

図画工作については、開隆堂を第1順位、1点としたいと思う。

用具の安全については日本文教出版のほうが少しいいかなという感じはするが、開隆堂は特に「小さな美術館」というコーナーがあって、葛飾北斎、俵屋宗達、丸山応挙、ゴッティン、ルノワール、クロゼック、いわゆる名作が検定にされている。図画工作においては、近年、絵画の巧拙が、逆に言えば、教育的にというか、評価の対象になるのが、必ずしもいいということではないので、工作のほうに力が置かれてはいる。ただ、名画と言われているものについては、修得する必要があるものと考えて、日本文教出版のほうは、ピカソの「ゲルニカ」が載っているだけだったと思ったので、こちらを評価したものである。

それから、オリンピック・パラリンピック2020の開会式において、特にオリンピックのときの1,800個のドローンによって夜の風景を演出したという、その写真が載っていた。そういうようなことを総合的に考えて、開隆堂としたところである。

それでは、図画工作についてまとめたいと思う。

岡田委員を除き、全員、開隆堂。仲山委員は同率ということであったが、第1順位で多いのが開隆堂である。開隆堂としてよいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、図画工作については、開隆堂を採択することとする。

それでは、次に、家庭科である。

坂口委員から願います。

坂口委員

家庭科は、東京書籍、それから、開隆堂もいいかなと思って二つとも選んだが、第1位は東京書籍にする。

家庭科の学習内容は非常に分野が広い。その項目を全て学び尽くすというか、学習させるというのは非常に難しいものがある。東京書籍がいいかなと思うのは、やはり小学生レベルということを考えて、家庭科学習で欠かせないものを取捨選択し、コンパクトにまとめてあることだと思う。

例えば、掃除の手順、雑巾のしぼり方から家庭内の清掃、あるいは、学校の中で子供たちが取り組む清掃についても、こういうところに気づいて、こういうところもお掃除をしようというような導入も入っている。

あるいは、洗濯をするにしても、まずJIS規格があって、そういうものをきちんとラベルを調べて分けて洗うことを理解していく。そういうことが大変親切に、小学

生でもそこまでは知っていてほしいということがきちんと選ばれていると思う。

調理、買物、家計管理、これなどは奥行きと言ったらきりが無いが、その辺りも子供の目線をきちんと捉えて書いてある。

地域の一員としては、まちづくりへの参加まで、これも家庭科というか、社会科というか、そういうこともきちんと生活するには関わっていくのだということを教えていると思う。

それにいろいろな学習については、QRコードの情報を足してまとめてあると思う。

開隆堂も同様に取り組んでいるが、本当にもっと詳しく、もっと学習課題を計算し、逆に、家庭科という科目に全人教育を目指すのかというぐらいのたくさんの情報を伝えてある。何もかも伝えることではないという、その辺りが東京書籍の選んで載せたことと少し違うかなと、その区別を思った。でも、季節を追って日本人の暮らしが成り立ってきている文化とか習わしの様子を紹介しているのは、非常にいいところだと思った。

教育長

では、中田委員。

中田委員

私は、開隆堂を選んだ。

2社とも学習の流れやめあてが単元発現に見やすく記されているため、見通しをもって学習できるようにはなっていた。巻頭では、どちらも家庭科がほかの教科と関連していることを表記している。

東京書籍は、目次が写真入りで、これから始まる家庭科が目で見えて楽しめる工夫があった。

開隆堂は、目次での問いかけが多く、自分で気づくことを重視しているように感じた。

東京書籍の日本の伝統紹介も興味の幅を広げる意味でも有効に感じた。

両社とも巻末では、中学校で技術家庭を学習することへとつないでいる。

まとめとして、学習内容を振り返り確認できるようにもなっていた。

そこで、開隆堂を選んだのは、見開きで左ページから右ページへ調理手順やミシンの使い方、買物の流れなどでの記載が幾つかあった。それが大変見やすいと思った。

整理整頓の単元では、お道具箱の中身を出して、まず必要なものと必要でないものに分け、よく使うもの、あまり使わないものに分ける、順を追って整理する手順が学べるようになっていた。整理が不得意な子供や発達障害がある子供には分かりやすいのではと思った。

お金の使い方の単元も、買物の流れのところでは、計画を立て、本当に必要なものか考え、情報を集めて買う。買った後も、使ってみて、計画どおり買えたのか、予算内だったのか、品質はどうなのか、それがイラスト入りでとても分かりやすく思った。今、プリペイドカードやインターネットで買物が簡単にできるようになった時代で

生きている子供たちに、消費するということを教えていくことがいかに大事かと考  
える。

また、豆知識という豆のイラストで楽しく載っているのもよいと思った。  
以上である。

教育長

それでは、岡田委員。

岡田委員

私は、東京書籍を第1位、開隆堂を第2位として推薦する。

東京書籍の教科書は、課題発見として見つめよう、課題解決として計画しよう、実  
践しよう、評価改善として生活に生かそう、新しい課題を見つけようが題材ごとに設  
定されていて、問題解決式の学習が行えるように工夫されていた。

特に対話や話し合いを行う際の内容が明確で、学習指導要領の趣旨に沿った指導が  
できると思った。

また、課題の発見から解決までの探求的な学習の流れに一貫性があると考えた。

さらに、授業のねらいが明確に記載されていて、知識、技能に関する基礎的・基本  
的内容が身につけられるように工夫されていると感じた。

一方、開隆堂の教科書は、題材の内容に関する広く深められた資料や写真が多く掲  
載されている点はとてもよかったと思う。ただ、紙質にざらざら感があることが、児  
童にとってどうかと気になり、また、学習の流れに関して、衣服の単元の学習が終わ  
ってから、涼しい住まいで快適に、そういう順番の学習があって、季節に沿った指導  
がしにくい学習の流れが少し気になったところである。

このような理由から、東京書籍を第1位、開隆堂を第2位として推薦したいと思う。  
以上である。

教育長

仲山委員。

仲山委員

私は、東京書籍を第1位に、開隆堂を第2位に推薦する。

基礎知識や技能が身につけられる、そういう点において両社に大差は見られない  
と思う。一方、資料としての情報量は開隆堂のほうが多いのだが、題材配列が実践し  
やすい点、それから、各題材の流れが明確で、家庭科に慣れていない教員でも授業が  
しやすいと考えられる点を重視して、東京書籍を第1位に推薦した。

以上である。

教育長

では、私であるが、私は、家庭科は開隆堂を第1位に、それから東京書籍を第2位  
としたいと思う。



まず、開隆堂については、SDGsについての記載が十分されていること。それから、資料や写真が豊富に掲載されていること。それから、学習のめあてが必ず明示されている。若干、他の委員からもあった紙質が少し悪いかなという感じはしたが、いずれにしても、私はこれを第1順位。

それから、東京書籍については、安全面の指導について適切に記載がされていることと、練馬区の実践事例が採用されていて、ちょっと惜しいところではあるのだが、私は開隆堂を一番、東京書籍を二番としたものである。

それでは、家庭科についてまとめたいと思う。

3名の委員が東京書籍、2名の委員が開隆堂であるが、3名の東京書籍を採択するというのでよいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、家庭科については、東京書籍を採択することとする。

そろそろ12時になる。あと3教科あるが、引き続き審査を審議させていただいてよいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、引き続き審議をさせていただく。

11番、保健である。

では、中田委員から願います。

中田委員

これは2社を選んだ。2社が1位というか、Gakkenと東京書籍、2社とも文字やイラスト、写真とのバランスがよく、全体的に見やすい印象を受けた。

また、どちらも学習の課題からステップごとに記入欄があるため、最後にまとめて記入するよりも、その場その場で気づいたことをすぐ書き込める点がいいと思った。

書き込むページが多いと負担に思う子供もいるかもしれないが、3年生の初めから一言だけでも書く習慣をつけることによって、自分自身の考えに気づく練習を培ってほしいと思う。

学習を広げたり、深めたりするのに役立つ資料も多く取り上げてあり、参考になると思う。

東京書籍は、資料の最終ページに地域の健康や安全を守る活動に取り組む人々として、自分たちが健康で安全に暮らしていくためには、地域の人の協力が必要である

ことを伝えている。とても大事なことだと思った。

また、東京書籍の巻頭では、「ほけんの学習を始めよう」で、健康で安全な生活を送る力を育てることで、あなたの夢をかなえる確かな力になると子供たちにメッセージを送っている。

Gakkenの巻頭では、「健康って、どんなこと?」と呼びかけ、「元気に体を動かそう」、「楽しく学ぼう」と、あえて保健の学習という言葉を使用せずに導入している。目次も、ほかの県のポスターや掲示物を紹介して興味が沸く内容となっていた。

3年生から初めての教科である保健を、構えることなく学習できる工夫がされていた。

以上の点で、2社を選んだ。

ただ、どの出版社も共通して、体を動かして心を静める、体がリラックスすると心もリラックスするという呼吸法や軽い運動の紹介があった。体と心は連動していて、どちらかが不調であるとバランスを崩してしまうということを保健という教科で学ぶことが、実はどの教科よりも一番大事なのではと私は思った。

以上である。

教育長

同率一位という評価でよいか。

中田委員

はい、同率一位でいい。

教育長

はい、分かった。東京書籍とGakken、同率一位では、岡田委員、願います。

岡田委員

私は、第1位に東京書籍、第2位に光文書院を推薦する。

東京書籍では、5年生の冒頭部の学習、心の発達で、心の発達を感情、社会性、思考力の三つに分けているのは各社とも同じであるが、この分類に合わせた絵と発問が載っていて、さらに1歳から5歳、5年生、未来の私、そこまで心の発達の様子を絵に表していて、児童によく考えさせることができる教科書だと思った。

喫煙、飲酒、薬物の学習で、東京書籍と光文書院の教科書では学習内容の記載の仕方、子供が行うまとめや話し合う活動があり、これがとてもよかったと思うし、使いやすいさを感じたところである。

また、飲酒、薬物監用防止の学習では、それぞれが体に及ぼす害について学ぶことはもちろんであるが、誘われたときにどう断るかといった学習も必要かと思う。この観点から、東京書籍が最もよいと感じた。

また、3・4年生の体の変化の学習で、性についての多様性を扱っている。東京書籍では、この扱い方が工夫されていた。特に自分らしさを体の性、心の性、好きにな

る性、表現したい性の四つに分けて児童に提示してあるが、これが最も分かりやすいと思った。

また、QRコンテンツで性と自分らしさの学習を補強していて、児童が自分で学ぶことができるのはとてもよいと思った。

光文書院では、5年生の教科書の導入部である心の発達を他者と比較すると、心の発達を感情、社会性、思考力の三つの項目を挙げて、それぞれ3から4歳頃と5年生の頃の様子を絵で表しているが、発達の変化の様子がよく分かり、とてもよいと感じた。

しかし、子供たちが話し合い、自ら考える学習活動を行わせるには、少し発問の数が少ないことが気になった。

喫煙、飲酒、薬物の学習では、光文書院も学習内容の記載の仕方、子供が行うまとめや話し合い活動があって、これはとてもよかったと思う。

3・4年生の体の変化の学習で、性についての悩みとして、体の性と心の性など、性の多様性を扱うとともに、相談窓口を取り上げているのは、とてもよかったと思う。

以上の理由から、東京書籍を第1位、光文書院を第2位に推薦した。

以上である。

教育長

仲山委員、お願いする。

仲山委員

私は、東京書籍を第1位、Gakkenを第2位に推薦する。

保健は正しい健康情報を得たり、健康に関する課題解決に主体的かつ適切に取り組めるような力をつけることが大事だと言われている。東京書籍、Gakken、心の健康に関しては、どちらも自分事として学習が進められるようになっている。一方、以下の点で東京書籍のほうを高く評価した。

薬物濫用の学習で、内容が幅広く、表現が強いということである。また、薬の適切な使用の仕方が分かりやすいということがあった。

さらに、これは先ほど岡田委員も指摘していたが、性の多様性を体の性、心の性だけでなく、好きになる性、表現したい性と四種に分類し、自然に受け入れやすい、そういう分類をされていた。

こういった理由から、東京書籍を第1位に推薦した。

教育長

では、坂口委員、お願いする。

坂口委員

私も東京書籍を第1位に、Gakkenを第2位に選んだ。

東京書籍、この保健という科目の非常に多岐にわたった、先ほどの家庭科と同じで、生活も命も心の発達も本当にたくさんのことを学ばなければならない、あるいは、大

人としても伝えておきたいという気持ちが非常にある。だんだん自立した大人になってほしいという願いがある。

だから、両社とも、どちらの会社も、長い文章とかではなくて、非常に短い言葉で、非常に選び抜かれた言葉、それからイラスト、写真を使い、ここが少しGakkenと違ったのだが、東京書籍の場合は、ここは大事だということでは太字にして伝えているというところに気持ちを感じた。

それから、お酒とかたばこ、もちろん薬物濫用についての先ほどの岡田委員のお話のように非常に大事で、これから本当に子供たちが遭遇するであろうことについての大人としての願い、これをこうしておきたいということをきちんと書いてあるということも、これは東京書籍のほうが書いてあると思ったし、性の発達とか、一番内面が成長するときの、体とかが成長するときのいろいろな悩みについて、非常にいろいろな生き方とか考え方があるのだということもきちんと伝えようとしているところもよかったと思う。

やっぱり子供たちに手にしてほしい教科書だと思って、Gakkenもほとんど同じような扱い方なのだが、先ほど申し上げたように、大事なところを太字にとか、その辺りのほんの僅かな違いで、いいかと思ったので、東京書籍を選んだ。

#### 教育長

それでは、私から申し上げます。

私は、第1順位に東京書籍を、第2順位にGakkenとしたいと思う。

まず、東京書籍であるが、巻頭の表紙に車椅子や外国人の児童が写真として掲載されている。それから、性教育の部分であるが、写真で男女の違いを表現して、そしてイラストの解説も非常に詳しく書いてある。それから、心の健康について、不安や悩みがあるときにどうしたらよいかという様々な方法が提示され、リラクスの方法はQRコードで動画が示されている。さらに、飲酒、喫煙、薬物濫用の実際の写真がリアルで、ちょっとリアル過ぎるところもあるが、逆に言えば、取りわけ薬物濫用についての被害がひしひしと分かるような感じになっている。それから、犯罪被害に対する対策のページ数の記載が多いこと。

以上を思っている。

保健については、小3からの学習なので、一定年齢になってからということだが、Gakkenについては、自分で考える、友達やみんなで考える、身につけたことを生かすという順序立てて記載されている。書き込むページがかなり多い。そういった意味では、記載があまりお得意ではない児童にはきついものがあるかもしれないが、書くことによって習熟を図るという点では有効だと思う。学習は定着するということになるかと思う。それから、コロナに対する記述、これも的確にされていた。薬物濫用については、東京書籍ほどリアルなものではないが、逆に、友人等から勧められた場合の反応という記事があって、そこでどこが間違っているのかということを考えさせる記述となっているところが特に印象に残った。

以上で、東京書籍を第1順位に、Gakkenを第2順位とした。

そこで、まとめたいと思う。

全員、同率の中田委員も含めて、東京書籍になっているが、保健について、東京書籍を採択することでよいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、保健については、東京書籍を採択することとする。

それでは、英語をお願いします。

岡田委員から。

岡田委員

私は、第1位に東京書籍、第2位に光村図書を推薦する。

教科書を選ぶ観点であるが、外国語については、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するという目標があって、それは教室内だけではなく、いつでもどこでも児童が興味関心を持って学習できる環境づくりが必要だと私は考えている。つまり、教室内はもちろんのことであるが、教室だけではなく、家庭でも自分で課題を感じたら、そのときに自分で教科書を開いて、見たり、聞いたり、書いたり、話したりするなどの活動や学習ができる教科書がとても大切だというふうに考えている。このような観点から教科書を検討した。

東京書籍では、学習内容や写真、説明が分かりやすく記述されていて、各ユニットの学習内容が明確で、ユニットで育成された力をアウトプットできる教科書だと思う。

また、5年生では、自分のこと、日本のことを伝え合う学習活動があったが、6年生では、世界とつながることを取り上げた学習活動が展開されており、とても興味深いものになっていて、児童の興味関心を高めることができる内容だと感じた。

さらに、外国語の学習の特性から、英語が身近に存在することが大切で、そのためには家庭での学習環境にも配慮する必要があるが、東京書籍のQRコンテンツの内容が最も充実していると感じたところである。

光村図書では、単元の冒頭にある活動や学習の流れは分かりやすく示されているので、とても使いやすい教科書だと思った。

また、単元の配列が平易なものから難易度の高いものへと上がっていく配列で、児童にとっては学習しやすいという印象を受けた。

5年生の学習に出てくるQRコンテンツでは、登場人物がゆっくり明確な発音で会話して、さらに聞き取りを補助する英単語が出されているのはよかったと思う。ユニットの中で、Hop!、Step1・Step2、Jump!があって、学習内容がそれぞれ決まっているが、東京書籍のように4つの段階の、今はどこの段階の学習かを示していないので、個別バラバラな印象を受けた。それでもこのような構成になっている点は、とてもよいと思った。

以上の結果から、東京書籍を1位、光村図書を第2位として推薦する。  
以上である。

教育長

それでは、仲山委員、お願いします。

仲山委員

私は、光村図書を第1位、開隆堂を第2位に推薦する。

英語の音声や基本的表現に慣れ親しみ、聞いたり話したりする力をつけるために、デジタル教科書は非常に効果的であると思う。このデジタル教科書に関しては、各社内容にそれほど差はなかった。ただし、使いやすさの点では、開隆堂と光村図書が優れていた。

また、分かりやすく難し過ぎないことも小学校の外国語として大事であると思う。これらに関しても、両社は優れていると感じた。

些細なことであるが、若干差が出たのが、色使いと統一感のある点で読みやすい光村図書を第1位に推薦した。

以上である。

教育長

それでは、坂口委員、お願いします。

坂口委員

私も外国語に関しては、光村図書が1番、それから開隆堂を2番に選んだ。

光村図書のデジタル教科書、同じ教科書のイラストが立ち上がってきて、その同じページ内で実際に会話している場面がある。非常に分かりやすいし、こういう発音なのだなど、速さなども調整できるので聞きやすいと思う。

ターゲット・センテンスのやり取りも幾つも幾つも繰り返し聞き取ることができて、いつの間にか耳に入るということをねらっているのかと思うが、そういうことも楽にできるし、さらに「Plus One」で、また次の会話も進められるという、会話をつないで言葉を覚えて、さらに話し言葉を吹き出しで手書きふうに表示してある。こういうふうにするのだなどということを、とにかく目からも耳からも学習することに工夫ができています。

5年生の110ページの折り込みに「ALL ABOUT ME」という欄がある。今度は自分がどうやったからこういう表現ができるかということを書き紙のところに書いていく。それもいいアイデアだなどと思う。

外国語の学習に心を開こう、違いを学ぼう、友達から学ぼう、違いを楽しもうなどというスローガンは語学学習の基本であるから、こういうこともいい動機づけになるかと思う。

開隆堂も、本当にデジタル教科書などは同じである。聞きやすいし、内容が理解できる。教科書の人物が会話している学習が進められる。

特にターゲット・センテンスなどはグリーンの吹き出し、この言葉を今言っているということが目から見える、分かるようになっていいる。「Small Talk」というか、そういうテーマは非常にたくさんあるし、会話の内容も聞きやすく、繰り返しの練習もできる。紙面をめいっぱい余白もないほどイラストや写真が画面で構成しているのが、少しすっきりしないというか、見にくいかなと、それは思った。その点が僅かに光村図書のほうが優れているかなと思った。開隆堂は、本当にたくさん、めいっぱい使ったという、余白がないような、そのような感じも私はした。

教育長

それでは、中田委員。

中田委員

私は、1番に光村図書、2番に開隆堂を選んだ。

3年生から少しずつ学習してきた英語が本格的に始まる5年生で、苦手意識を持たせないように、記述が多過ぎるもの、視覚的に情報量が多く感じた出版社を避けて、イラストと文字のバランスがよく、小学生の英語として手にとって見やすいもの、また、英語に関しては、デジタル教科書が発音を聞くために有効に活用されると考えるが、その使用方法によって授業の妨げにならないよう、教員、児童が扱いやすいものを重視して選んだ。

2社ともに巻頭に、これから学ぶこと、本書の使い方等、丁寧に記述されている。単元冒頭で、ゴールとなる活動がしっかりと示されていて、目次でもゴールの記述があり、何を学習するのかを確認することができる。

開隆堂は、各単元で学ぶセンテンスが薄い緑色の吹き出しで示されていて、光村図書は青い吹き出しで示されている。両社ともにイラストや写真とのバランスがいいため、すっきりと見やすい印象であった。両社とも別冊があり、振り返りができる点では効果があると思う。

特に開隆堂に関しては、巻頭で、授業で使える20の表現、これがいいと思った。

「Let's say it」これは簡単に言えるワードを取り扱っていて、授業の合間に気軽に発声しやすいよう配慮されている。教員も子供たちへ促しやすいと思う。英語は口に出すことを躊躇しないよう授業を進めていかなければいけないと思うため、これは効果的に思った。

ページ下の「Small Talk」は、日常で使用する例文の記述があるため、復習にもなっていると思った。

5年生の「Letter Box」の「ん」の発音と文字では、日本語でなかなか意識しづらい発音のことを教えてくれていた。

Our Worldで世界のことが載っていて、標識やスポーツ、世界遺産など、興味深く読むことができた。

光村図書に関しては、巻頭に「いつもたいせつ」というページがあり、Eye Contact(目と目を合わせて)、Smile(笑顔で)、Clear Voice(はっきりとした声で)、Response(相手の言葉に反応しながら)と、学習に入る前に大切なことを伝えている。

英語だけではなく、日常会話で大事なことだと思う。5年生になったタイミングで再度確認できることはよいことだと思った。「いつもたいせつ」というところは、開くといつでも見ることができるようにも工夫されていた。

単元の中で、教科書右上に、そのゴールに向かうための学習の流れとして、Hop!・Step!・Jump!のイラストがあり、今どの段階を学習しているかが分かりやすくなっている。

巻末の学習の振り返りとして、5年生、6年生、どちらも単語や文の書き方として、単語を書くときの注意点は、文字と文字との間が開き過ぎたり、詰まり過ぎたりしないようにと、ちょうどよい、あきすぎ、つまりすぎの見本が記されていた。イラストもあり分かりやすく、文を書くときの注意点では、8項目あり、基本的なことを表しているが、それは他社にはない特徴であった。大きさがコンパクトである中で、内容は十分であると思い、光村図書を一番に選んだ。

教育長

では、私から。

私は、英語の第1順位を開隆堂に、第2順位を光村図書にしたいと思う。

まず、開隆堂であるが、ゴールとなる活動と学習の流れが分かりやすく記載されている。それから、平易なものからだんだん難しくなるような配列がされている。それから、単語集が別冊となっているが、振り返りができるような編集、例えば小5の内容が小6で再掲されている等の配慮がされている。それから、特に外国語については、デジタル教科書が出ている。内容がアニメーションと連動しているので、イメージがしやすいと思う。それから、速度の調節でスローとかが簡単にできるということで、開隆堂を1位とした。

第2位の光村図書であるが、やり取りPlus Oneというコーナーがあって、レスポンス例が記載されている。それから、こちらもデジタル教科書の速度調節が可能である。それから、「Let's listen.」、「Let's watch.」という見出しが書いてあって、それで検索することが簡単にできるという観点で、第2順位とした。

それでは、英語について結論を出したいと思う。

5名中3名の方が光村図書、それから、私と岡田委員は第2候補としている。したがって、一番多い光村図書を英語の採択としたいと思うが、よいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、英語については、光村図書を採択することとする。

では、最後である。特別の教科道徳についてである。

それでは、仲山委員から願います。

仲山委員



特別の教科道徳に関しては、光村図書を第1位に、教育出版を第2位に推薦した。道徳は、生活の中で出会う様々な場面で、どのように振る舞うのがよいのか、よい生き方とはどのようなものなのか、それらを深く主体的に考え、判断するために、教科書で取り上げた教材を基に、基本的な道徳性を広く深く学ぶことが重要であると思う。

そのために、教科書としては、取り上げた教材の適切さに加え、道徳観の押しつけにならず、教員の裁量が発揮でき、かつ、教員によらず一定水準の授業ができる教科書がふさわしいと思われる。そのとき大事なことは、各教材に入る前の問いかけと、読み終えた後の発問の内容と数が大事であると考えた。

これらに関して優れている光村図書を第1位に選んだ。

教育長

坂口委員、願います。

坂口委員

私も第1位に光村図書と、第2位に光文書院を選んだ。

光村図書は、道徳で学ぶ準備として、冒頭の案内に「20のとびら」とか、話し合う「こつ」と、平仮名で示すように「こつ」と書いてあって、いろいろ楽しく分かりやすく記載されていた。

お話の後に、ページの下の段、みんなで話し合う場面を設定して、発問に誘導ではなく、自らの思いや意見を述べる配慮を感じる。

それから、巻末に考えていることを記録するコーナーもあり、ロールプレイで思いを語る自己表現の技法も非常に有効だろうと思った。

二次元コードも音声の朗読がまずあり、非常に分かりやすいし、世界の文化の紹介でも、写真と資料をプラスしていたが、それがほどよくて、多過ぎないのがいいなと思った。いろいろ簡単に入ると、いろいろな情報を入れようとするが、母と子の場面の動物の写真のみを、たくさんではなくて、数枚にして、それをみんなで思うことを語り合うようになっていた。

光文書院もその辺は非常に考えて、1・2年生に対しては呼びかけている。へこんでも立ち直る、問いを見つける、いろいろな見方をする、自分を見つめる、そういうことをいろいろな形で伝えていくが、この場面はなぜか非常にポイントが小さく遠慮して書いてあった。でも、次のページからは、話をしよう、どんなとか、例えばとか、ほかにはなどと言うと、話し合いができるよという紹介が出ていた。そういうものでレイアウトは非常にすっきりしていたと思う。

光文書院の特徴は、この30人なりのクラスの全員が何を思ったかを問うのは非常に教師として大変、全員が発表するのは難しいので、別冊のノートがあった。そこに自分の今日の学習の中で気づいたことを書いて提出するのか、そういうことに、少し自分の表現をするようになっていた。これでクラス全員のどの子も何かこの一つの教材でどれだけのことを考えたのかということが分かるようになっていたと思う。

余談であるが、このどちらの会社も、アメリカのバスのボイコット運動を取り上げ

ていた。キング牧師の「I Have a Dream」の演説につながる場面であるが、これを私は多分、中学校の英語の教科書などでも取り上げたものを随分見た。だから、こういう場面を見て、子供たちがこれに出会うと、あのバス・ボイコット運動がこういう大演説になったのかなということが分かるしということを想像して楽しかった。

以上である。

教育長

では、中田委員、お願いします。

中田委員

私は、光村図書を選んだ。1つだけである。

道徳は、心を育む教科であると思っている。育ってきた環境や個人の性格によって受け止め方は違うと思う。答えも一つではなく、感動する場面も個人によって違ってくる。私自身、読んでいて胸が熱くなる話が幾つもあった。それをどう感じるのか、何も感じないときもあるかもしれないし、それを言葉でうまく伝えられないかもしれない。模範解答を言えばよいと考える子供もいるかもしれない。また、大人の捉え方と子供の捉え方も違うと思う。

まず、自分がどう思ったのか、次に、他人がどう思ったのか、自分と違った考え方があることを知り、その相手とどうやって関わっていくのかを学んでいかなければならない難しい教科だと思う。

1年生の最初が肝心であると考えた。

光村図書は、1年生の「どうとくがはじまるよ」のところで、「どうとくは心について考える時間、いろいろな心を見つけよう」と書いていた。自分の気持ちを伝えよう、友達と話し合おうなどの記載は他社にはあったが、光村図書のこれが、一番、私にはぴったりきた。子供の心のどこかに何か響いてくれたらいい、そう思った。

2年生からは、みんなで気持ちよく話し合うためのこつとして、学年が上がるごとにステップアップしている。

中学年でこのこつは、話合いのときは、あいうえおで答えようというのが簡単で取り入れやすいと思った。

「考えるヒント」の「道徳で使う言葉」は、気持ちを表す言葉、詳しく伝えたいとき、そういうときに役立つ言葉が列記されていて、語彙力を増やすことができると思う。

学年末は、低学年、中学年はシール貼り、高学年は一言感想の記録となっているため、無理なく取り組めると思った。

以上である。

教育長

では、岡田委員、お願いします。

岡田委員

私は、1位として東京書籍を推薦する。2位が光村図書である。

小学校の学習指導要領解説の道徳編で、道徳性を養うために行う道徳科における学習として、次の4点が挙げられている。

一つが、道徳的諸価値について児童が理解する。それから(2)として、自己を見つめる。(3)として、物事を多面的・多角的に考える。(4)として、自己の生き方についての考えを深める。この実現のために、道徳の授業では、読み物の教材を教師がどう扱うかということがとても重要になってくる。読んで感じただけでは駄目で、先ほどの4つの観点を子供の心の中にどういうふうに変換させていくかという、そういうことが授業の中で求められるわけである。

道徳の授業で扱う教材には、必ず道徳的な問題が記述されていて、児童はそれに気づく中で児童自身に語りかけ、他者と議論を進めようとする。道徳科の教科書にある教材には、道徳的問題が生じて、主人公が考えたり、悩んだりするような場面があって、そこで主人公は道徳的問題に直面して道徳的決断をしたり、道徳観の変化が生じたりする。この部分で教師は中心発問するわけだが、このとき児童は、自分との関わりを考えたり、他者の意見を聞いて、多面的・多角的な見方を身につけたりすると考える。文章の流れや言葉から主人公の気持ちや作者の気持ちを汲み取ったり、表現したりするのは国語の授業であるが、児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めたり、他者の多様な感じ方や考え方に触れることで、身近な集団の中で自分の特徴を知って、伸ばしたい自分を深く見つめられるようにしたりするのが道徳の授業だというふうに思う。

そのためには、中心発問と、そこに至る補助発問が極めて重要になる。したがって、教科書に示される中心発問は、できるだけ少ないほうがよいと私は考えている。発問が多いほど道徳的価値にリードしがちになると考えるからである。

児童が自分自身との関わりを見つめることができる中心発問、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら物事を多面的・多角的に考えることができる中心発問、発言しにくい内容でも安心して発言できるようにする補助発問を児童の実態に応じて先生方が工夫していただくことができる教科書がよいと考えて教科書を調査研究した。

また、自分との関わり、つまり、これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方等と照らし合わせながら、さらに考えを深めることも道徳の授業で求められるが、「～をしたことがありますか？」という、児童の今までの経験を振り返らせる発問がとても重要になる。この観点からの発問は、東京書籍が一番多くあった。過去の経験を問う発問は、児童が「自己を見つめる」ことにつながって、「自己の生き方についての考えを深める」ことにつながる重要な発問だと思う。読み物道徳に終わらない授業を行うためにも、どのような中心発問や補助発問があるのかを重視して調査をした。

その結果、東京書籍が1位、光村図書を2位として推薦する。

以上である。

教育長

では、私から。

私は、光村図書を第1位に、教育出版を2位とした。

まず、光村図書であるが、これは他社では様々であるが、全学年統一したテーマで貫かれている。この会社については、「きみがいちばんひかるとき」、これは小1から小6まで全部一貫している。これは他誌にも載っているが、「手品師」という、あまり売れないが、それなりのテクニックのある手品師のことであるが、これ、本文は全く同じものであるが、道徳というのは、本文を読んだ後の活動が重要なだろうと、そういった意味では、単なる決めつけだけではなくて、様々なルートで、これを子供たちがおのおの理解すれば、それでいいのではないかと。だから、あるときには自分が必ず損に回るといようなことも、損得では駄目だといようなことも決めるものではなくて、これは児童が自ら考えていくものだろうと思う。

この光村図書は、6年生の冒頭に、「道徳が始まるよ」、「道徳で学ぶ22のとびら」、道徳の道案内というものがガイドされていて、そのとびらの4つ、自分について、相手との関わりについて、社会との関わりについて、命・自然との関わりについて、この4つを大テーマとして様々な記載がされている。

中に、タレントの中川翔子さんが中学生時代、いじめに遭っていたという投稿がされている。隣にいる人という意味の隣の人という、木村という友達がたまたまいて、その人に助けてもらった、助けてもらったというよりも、嫌なことを聞かなかったという配慮だったと。ある意味では、タレントの中川さんが中学生のときにいじめられていることを、この教科書で私も初めて知った次第である。

また、もう一つ、これは他誌にも載っているが、杉原千畝、リトアニア日本領事館代理の方について、ほかのところは杉原千畝さんというテーマで出しているのだが、ここは「55年目の恩返し」という記載がされていて、読んでみて初めて分かることがある。阪神・淡路のときに兵庫県か神戸市を支援するという寄附があって、それが55年前に彼が助けたユダヤ人の人たちだったと。そういった意味では、タイトルをもろに出さないで、深く子供の心に浸透させるといような、この会社の意図を感じた。そういった意味での特徴的なものだと思う。

教育出版は、二番手だが、これは逆である。この全学年統一したものは、ここもあるが、「はばたこう明日へ」ということだが、「手品師」については同様で載っている。ただ、それから先が、将棋の藤井聡太七冠、米百俵の小林虎三郎、それから杉原千畝、棟方志功、全員、お名前がずばり載っている。逆に言えば、下段の用語解説は非常に詳しい。確かに藤井聡太さんの話になると、奨励会という育成システムとか、21歳に初段にならなければ駄目だとか、26歳で4段にならなければ駄目だとかというのがきちんと下段に書いてある。その他についても同様である。そういった意味では、用語解説は詳しいと思う。これは先ほど申し上げた光村図書とは違って、たくさんのジャンルを用意して、子供たちがどこかのチャンネルに合えば成功だといふふうにかこの会社は思っているのではないかと。一つの考えだと思う。全員が全員理解しなくても、いろいろな多チャンネルの中で引っかかるものがあれば、その子供たちにとっては有効ではないかと思う。

道徳という教科について、私なりに思うが、こうやって偉人の伝記みたいなものが

結構記載されている。でも、これは単なる読書ではない。道徳にはその先が必要だと思う。単なる読書に終わらせないということが教科書を選ぶときの一番の要諦ではないかと思う。

そういった意味では、感動したというだけではなくて、そのとき、なぜこの人はこうやったのだろう、行動したのだろうとか、自分ならどうするだろうかということを通じて深めていくことが最終的な道徳の目的ではないかというふうに思った次第である。

以上である。

13番目の道徳だが、岡田委員が第2順位になっているが、ほかの委員が全員第1順位としたので、ここの特別の教科道徳については、光村図書を採択することによいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、光村図書を採択することとする。

そうすると、13種目が全て確定したので、改めて確認をさせていただく。

まず、国語については光村図書、書写についても光村図書、社会科については教育出版、地図については帝国書院、算数については東京書籍、理科についても東京書籍、生活科は教育出版、音楽は教育出版、図画工作は開隆堂、家庭科は東京書籍、保健も東京書籍、英語は光村図書、特別の教科道徳も光村図書、以上であるが、それによいか。

委員一同

はい。

教育長

以上、13種目については、ただいま申し上げたとおりで採択することとする。

それでは、議案第37号については、これをもって終了する。

#### (1) 旭丘・小竹地区における新たな小中一貫教育校の設置について

教育長

次に、協議案件である。

継続審議中の協議1件については、本日のところ、継続とし、次回以降に協議を行いたいと思うが、よいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。

(1) 教育長報告

教育長

次に、教育長報告であるが、本日予定している報告案件はない。  
事務局から、その他、あるか。

事務局

現在のところ、ほかにない。  
以上である。

教育長

それでは、委員の皆様から何かあるか。  
よいか。  
それでは、以上をもって第15回教育委員会定例会を終了する。